平成 18~20 年度 長崎大学 FD 実施報告書



長崎大学 教育改善委員会

第1編 平成18年度

1. 平成 18 年度実施の長崎大学 FD(大学教育機能開発センター実施のもの)
第 24 回「長崎大学新任教員 FD オリエンテーション
新任教員のための就業規則等制度説明
長崎大学歴史散歩 -150 年をふりかえる一」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第 25 回「課題探求・解決型授業の支援 3」・・・・・・・・・・・・・・7
第 26 回「教員との個別相談(コンサルティング)」・・・・・・・・・・1
第 28 回「全学教育 FD ワークショップ」 外国語科目 「授業改善に向けの検討と今後の展望」・・・・・・・・・・・・・・・・1
教養セミナー 「成果評価基準について」 「教育マネジメントサイクルの構築と授業改善」・・・・・・・・・14
教養特別講義「教養特別講義-教育マネジメントサイクルの構築と授業改善」・・・・・15
教養セミナー 「教養セミナー担当者への提言:学牛に何を学んでほしいか」・・・・・17

第 24 回「長崎大学新任教員 FD オリエンテーション 新任教員のための就業規則等制度説明 長崎大学歴史散歩 -150 年をふりかえる-」

- 1. 趣旨:新任教員が、長崎大学の組織と役割、諸手続の方法について理解を深めるとともに、長崎および長崎大学の文化や歴史などを知ることにより、長崎大学の構成員として有用な情報や知識を 共有する。
- 2. 期日: 平成18年4月4日(火)
- 3. 場所:総合教育研究棟(文教キャンパス)・経済学部(片淵キャンパス)・医学部・歯学部(坂本キャンパス)
- 4. 対象:平成17年4月2日から平成18年4月3日までに長崎大学に新たに赴任した教員
- 5. 参加者数:54名
- 6. スケジュール

午前の部 新任教員のための就業規則等制度説明

9:00~ 9:15	受付(総合教育研究棟2階 多目的ホール)	
9:15~ 9:20	人事担当理事挨拶	﨑山 毅 理事
9:20~ 9:40	大学職員の遵守事項 -就業規則から-	人事管理課
9:40~10:00	フレックスタイム制	人事管理課
10:00~10:10	休憩	
10:10~10:30	科学研究費補助金の申請手続き等について	学術国際課
10:30~10:50	ハラスメントの防止	人事管理課
10:50~11:10	図書館の利用方法	学術情報管理課
11:10~11:30	人事・共済関係の提出書類	人事管理課
10 00 10 00		

12:00~13:00 昼食

午後の部 長崎大学歴史散歩-150年をふりかえる

13:00~13:15 特別講演①:長崎大学150年の意味からみた中期目標・中期計画

齋藤 寬 学長

13:20~13:40 文教キャンパス歴史散歩(携帯マイク:60台)

【文教キャンパス:原爆の惨禍から立ち直った新制総合大学60年の象徴】

【スタート】総合教育研究棟:21世紀・長崎大学の教育研究拠点(総合大学院)

- (1) 環境科学部正門前(旧教養部建物):1960年代~70年代/長崎大学と学生運動・教養教育
- (2) 正門前パネル (三菱兵器工場跡): 文教キャンパス誕生の意味
- (3) 長崎師範原爆慰霊碑: (学徒動員の中での犠牲)
- (4) 中部講堂:水産県・長崎の拠点大学としての期待を込めた寄付建物

13:40~14:10 バス乗車 (中部講堂前)・バス移動

バスルート:

国道 202 号線を南下

長崎大学→平和公園前→長崎駅前→国道 499 号線へ入り五島町電停付近から左折

新興善小学校跡(被爆時の長崎医科大学附属病院仮施設)→長崎グランドホテル:長崎県庁方面(医

学伝習所発祥地)→築町→賑橋→公会堂前→諏訪神社前→片淵へ

14:10~14:30 片淵キャンパス歴史散歩

【片淵キャンパス:キャンパスが語る一世紀の伝統】

(1) 入り口の架橋:100年間学生が通い続けた石畳

(2) 長崎高商門標:「第三高商」の誇り高い伝統の原点

(3) 瓊林会館・赤レンガ倉庫:原爆被災を免れた貴重な長崎大学の歴史的建物。同窓会の強い結束

14:30~14:50 特別講演②:高商 100 年と武藤文庫(経済学部新館 101 教室)柴多一雄 経済学部教授

14:50~15:20 武藤文庫の案内

柴多一雄 経済学部教授

15:20~15:35 休憩(経済学部中庭周辺)

15:35~16:00 バス移動(坂本へ)

16:00~16:40 坂本キャンパス歴史散歩

相川忠臣 医歯薬学総合研究科 教授 三根真理子 医歯薬学総合研究科 助教授 (原爆後障害医療研究施設)

【坂本キャンパス:生命科学の拠点であり続ける理由~150年の経験】

(1) 被爆遺構 (ゲストハウス)・附属病院門柱:8月9日の「証人」

(2) グビロが丘・慰霊碑:同窓生の思いを知る

16:45~17:20 西洋医学史展示・原研 2 号館展示見学

- ・ ポンペ会館 2 階展示室・附属図書館医学分館 2 階展示室
- 原研2号館1階展示室

17:25~17:50 特別講演③:近代西洋医学教育の父にして長崎大学の創立者:ポンペ・ファン・メール デルフォールト(医学部第2講義室)

相川忠臣 医歯薬学総合研究科 教授

17:50~18:00 学長総括(医学部第2講講義棟)・写真撮影(医学部第2講義棟 玄関ロビー)

18:00~18:30 茶話会 (医学部第2講義棟)

主催:長崎大学教育改善委員会

企画・実施:大学教育機能開発センター

協力:事務局

第24回長崎大学 FD:新任教員オリエンテーションに関する満足度調査結果					
対象:教育職員40人 2006/4/4					
1. 全般的にみて、今回のオリエンテーションに満足しましたか?					
満足した	13	あまり満足しなかった	3		
まあまあ満足した	21	満足しなかった	3		
無回答	0				
2. 全般的にみて、今回のオリエンテーショ	ンは長	長崎大学での生活に役立つと思いましたか?			
そう思った	17	あまり思わなかった	4		
まあまあ思った	16	思わなかった	2		
無回答	1				
3. オリエンテーションの内容は、参加前に	3. オリエンテーションの内容は、参加前に期待していた通りのものでしたか?				
期待通りだった	13	あまり期待通りではなかった	6		
まあまあ期待通りだった	20	期待外れだった	1		
無回答	0				
4. オリエンテーションで扱われたテーマについて、理解を深めることができましたか?					
理解が深まった	21	あまり理解が深まらなかった	1		
まあまあ理解が深まった	17	理解が深まらなかった	1		
無回答	0				

- 5. 2の質問で「あまり思わなかった」「思わなかった」、3の質問で「あまり期待通りではなかった」「期待外れだった」、4の質問で「あまり理解できなかった」「理解できなかった」という場合は、その理由を説明してください。
- ○伝統と歴史については、満足したが今後・未来のことについては学長の講演だけで取り扱われ、不満を感じた。
- ○学長の案内による散歩はとても興味深く楽しいものであったが、午前の制度説明が時間も内容も少なくほとんど分からなかったです。資料も十分とはいえず結局は HP をみろということなのでしょうか?特に科研費については、どの資料のどのページを説明しているのか分かりにくく(周りにも同じような人が多く居たと思います)、なんと言っているのかまったく理解できなかったです。
- ○共同利用の設備・機器などを案内して欲しかった。三重地区の案内がない。
- ○個人的には歴史散策は好きだが、大学職員としての生活に直接役立つ内容とは思えない。ただ、長い目で見れば(長崎に根を張って生きていくとするならば) 先人の功績の偉大さを知ることは長大をもう一度 "情報の発信地にする"という理念に対するモチベーションを高めるのに一役買うであろうと思う。
- ○予算執行、旅費精算など実務的な手続きの説明が欲しかった。不可抗力ではあるが天候が崩れたため に当初予定されていたコースを巡ることができなかったのが残念だった。雨の中での移動を強行するほ どの見学内容とは感じなかった。
- ○バスツアーは日常業務をやめてまでする必要はない。県外・他大学から来た方に対し土・日曜日に希望で行えばよい。(学生や家族も含めて無料で行えば集まるのではないか)
- ○事務的でタイムリーではない (午前中)。新人用しおりで詳細を記載し読ませればいい。質疑応答の時

間がない(午前中)。転入時の的確な連絡対策が分からず、転入時に非常に苦労し、研究開始までに数ヶ月も要した。

○既に採用されほぼ一年たっております。科研も申請済みですし当然図書館データベースも利用しております。長崎大学出身ですので OK でしたが すべて自ら問い合わせ等により解決しています。留学先と比較すると採用・初期オリエンテーションにあまりにも大きな差があります。

6	6. オリエンテーションの運営について			
	①オリエンテーションの広報は適切だと感じましたか?			
	適切だった	16	あまり適切ではなかった	8
	まあまあ適切だった	14	適切ではなかった	2
	無回答	0		·
	②当日の運営はスムーズに行われていると思いましたか?			
	そう思った	11	あまり思わなかった	5
	まあまあ思った	22	思わなかった	1
	無回答	1		

7. 今回のオリエンテーションについて、印象に残った点、企画・運営について改善すべき点、その他ご意見・ご 提案がありましたらお書きください。

○採用初期に必要な書類(図書・科研・福利・規則など)をセットにして配布していただいたほうが良いと思います。全て自ら行いました。歴史などについては希望者のみでよいのではないでしょうか。HPを読むなら集まる必要はないと思います。ポイントを絞って詳しくされた方が良いかと思います。

○経済学部に初めて行ったので、これは非常によかったです。午前中大学職員の遵守事項の説明をされていた方、あまり真面目に話しているように思いませんでした。特にハラスメントの事項の説明の時、笑っていたところが見受けられました。大学に関わる人間全員が真剣に取り組まなければならないと学長のお話を以前に聞いていただけに未だそのように感じられていない人間が学内に居ると思うと非常に残念でなりません。今回全ての貴重なお話をしっかり心に留め、今後進んでいこうと思います。(雨も残念でした)

- ○内容がタイムリーでなく、必要性に疑問が残る。長大の教員としての「心得」を教示して欲しい。学長 との散歩と歴史は非常に良かったと思います。これからも続けてください。
- ○昼食があればもっと良かったです(弁当など)。
- ○天候がよければもう少し散歩も良かっただろう。新任とはいえ、長崎大学入学から現在まで15年間 過ごしてきたが、まだまだ長崎大学で知らなかったことがあり、本日ビックリさせられた。大変興味深 いものでした。
- ○長崎大学の執行部の方々が一日中案内・説明などをしてくださって歓迎してくださっているのが分かり、とてもうれしく思いました。ありがとうございました。

- ○それぞれのキャンパスを回っていろいろと参考になったが、雨で散歩が大変で不十分だったので雨の 時の企画を考えておいた方が良かったのでは。
- ○雨のせいもあったが、かなり疲れた。スケジュールの調整・変更をお願いしたい。
- ○4月1日付けの着任であったためもあり、開催場所・時間など連絡を十分に受けられなかった。レシーバー利用の発想には賛同するが、音質の悪さや混信による不便など安易な技術の利用による不便さを感じる。
- ○医学部での展示物(特に原爆に関するもの) は興味深かった。長時間にわたるものだったので、体力的 にハードであった。もう少し時間の短縮を図れないか?
- ○幕末や原爆を背景とした長崎大学の果たしてきた役割や意義がより印象に残った。運営としてはワイヤレスホンの使用は斬新だったが、接続状態の問題や混線などで十分に機能が活かせなかった。調整が必要と思われた。
- ○長崎大学の歴史的背景がよく理解された。準備ご苦労様でした。独立法人化後の現状や今後の展望についての話がもう少しあっても良かったのではないか。
- ○単なる事務的な説明のみならず、長崎大学全体・長崎の歴史も含めて研修できたことは有意義であった。雨天であったのが残念でならない。
- ○講演、散策にやや冗長なところがあった。雨と寒さで困惑した。
- ○もう少し少人数のグループによる見学とした方がよいのでは?
- ○アナウンスが行き届いていない。日時のみを言い渡されただけで、どのような内容なのか全く知らなかった。天候が悪い場合の室内のみのプランを考えておくべき。特別講演の内容がかぶらないようにして欲しい(学長と最後の医学部の先生)。
- ○午前中配布プリントはもう少しコンパクトにまとめて量を減らして欲しい。
- ○長崎大学卒業生ですが、今まで知らなかったことも多く大変興味を持って聞くことができました。た だ残念なことに天候が悪く足下が冷え、行く先々が寒かったのが唯一悪かったと思います。
- ○他学部やキャンパスを散策するのは非常に有意義であった。今回はキャンパス単位で説明があったが、 各学部ごとに歴史や現在の状況の説明があってもおもしろいと思われた。
- ○新任者のオリエンテーションに、それも散策の同行案内役を学長自らお取りになってのオリエンテーションということで感激いたしました。歴史や文化を知った上での教育や研究と言うことで大学としての意気込みや期待されていることを認識することができました。辞令交付が11日と聞き、新任者は放っておかれているのかと思っていましたが、学長の人間味あふれる配慮の1つと判り、この大学に来たことを誇りに思っています。
- ○フレックスタイム制の資料のように裏表を使用したり、もっと字を小さくして資料を薄くすると用紙 も節約できるし保管に場所もとらない。
- ○文教キャンパスについての説明をもう少し多くしてみたらどうか?
- 8.今後、どのようなテーマの教員・職員のための資質改善プログラムを望みますか?(教育職員の方は、必要と 考える教育改善プログラム、教育活動における日常的な問題がありましたらお知らせください。)
- ○まずは教養部の再設立を心より望みます。教養部でしっかりと勉学(例えば理系学生なら自然科学科

目の基礎実験) する必要があると思います。

- ○「見せる授業」学生が興趣を示すための授業の方法や実践例などを提示して欲しい。研究については、何かと説明もあり経験もあるが教育講義については、はっきり言って自信がありません。教育学部という学生教育に重きをおいている学部があるので、その特長を活かし、日本でも最高峰の教員集団の育成をして欲しい。
- ○学生の自主性を重んじる教育の技(テクニック)について教育職員は学習する努力が必要と感じている。それについてのプログラムを期待しています。
- ○各課の適正や身につけるべき能力を向上させるような民間教育プログラムの導入など
- ○研修の際に学生の「生の声」として講義・職員に対してどう思うかを実際に聞く機会があるとより良い 研修になるかと思います。
- ○まだ着任したばかりで思いつきません。
- ○評価システムの説明がなかった。外部資金を取ること、多種多様な業務があることを聞く中で、業務 時間内では実施困難に見えました。しかし、大学の歴史が学べたことは良かったです。
- ○ハラスメントの FD を定期的に全職員に課すべき。
- ○希望者だけでも良いので、他の教官の授業(他学部も含め)の見学をしてみたらよいと思う。
- ○今までどのようなプログラムが企画実施されてきたのか知りませんので的はずれかもしれませんが、 講義・演習科目の教員相互のピア評価について取り組むことはいかがでしょうか。
- ○他大学と異なり歴史探訪的な内容もあり、計画書を見て、楽しみにしておりました。平和公園 etc 下車できたら最も良いですね。学長先生のお話は、心温まるものがありました。できたら「学報」なるものがあればシリーズで載せていただきたい。文教キャンパス、雨ではありましたが感激。雨で残念、晴れていたらもっと素敵だったでしょうね。計画してくださった皆様・お世話くださった皆様有り難うございました。
- ○午前の事務手続きは前職場で知っている。私のような人が多いのであればやめるべき。

第25回「FD サマーワークショップ-課題探求・解決型授業の支援3-」

1. 趣旨:

教員が、課題探求・解決型授業の計画・実施に有用な情報活用プロセス(情報探索・整理・表現)および、それらに必要な学習内容・指導法・教材の開発法について理解を深める。これらのワークショップは、問題解決能力や自己表現力の育成を目標とする科目の授業準備・実践に大いに役立つと考えられる。

FD サマーワークショップは平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム (特色 GP)」に採択された「特色ある初年次教育の実践と改善 - 教育マネジメントサイクルの構築-」で提唱している教育マネジメントサイクルの「③授業デザイン:シラバスの作成および教材開発」に位置づけられる。

- 2. 日時 8月30日 (水) ~9月1日 (金) 及び 9月19日 (火) ~21日 (木) 実施時間は1日あたり次の3コマとする:①10:00-12:00, ②13:00-15:00, ③15:15-17:15
- 3. 場所 全学教育棟(環境科学部)2階 207番教室,208番教室,252番教室
- 4. 対象 参加を希望する助手以上の教員および非常勤の教員
- 5. 参加者数 177名
- 6. プログラム
- 8月30日(水)10:00-12:00 授業を活性化する話し合い学習法
安永 悟(久留米大学大学院心理学研究科)252番教室15:15-17:15 レポート課題の出し方と作成支援
西田孝洋(医歯薬学総合研究科)252番教室
- 8月31日 (木) 10:00-12:00 質問紙によるデータ収集及びその分析 吉村 宰 (アドミッション・センター) 207番教室 13:00-15:00 フィールドワークで問題を発見する:インタビューの作法を中心に 増田 研 (環境科学部) 252番教室 15:15-17:15 発表資料作成のための画像の加工・編集 藤村 誠 (工学部),丸田英徳,長崎隆志(情報メディア基盤センター) 207番教室
- 9月1日(金) 10:00-12:00 マインド・マップを使った情報整理
 M.ルール, W.コリンズ (大学教育機能開発センター) 252 番教室 13:00-15:00 レポート課題の出し方と作成支援
 西田孝洋 (医歯薬学総合研究科) 252 番教室

9月19日(火) 10:00-12:00 パス・ファインダーの作成法 山口良子,浦さやか,宮崎紀子,森石みどり(附属図書館) 207番教室 13:00-15:00 マインド・マップを使った情報整理 M.ルール,W.コリンズ,W.(大学教育機能開発センター) 252番教室

9月20日 (水) 10:00-12:00 Excel を使った受講生情報の管理 三根眞理子 (医歯薬学総合研究科) 全学教育棟 13:00-15:00 フィールドワークで問題を発見する:インタビューの作法を中心に 増田 研 (環境科学部) 252番教室 15:15-17:15 発表資料作成のための画像の加工・編集 藤村 誠 (工学部),丸田英徳,長崎隆志(情報メディア基盤センター) 207番教室

9月21日 (木) 10:00-12:00 マインド・マップを使った情報整理 M.ルール, W.コリンズ (大学教育機能開発センター) 252番教室 13:00-15:00 質問紙によるデータ収集及びその分析 吉村 宰 (アドミッション・センター) 207番教室

●ワークショップ概要一覧

	ワークショップ名(講師*敬称略:所属)	概要
情報	質問紙によるデータ収集及びその分析	データ収集の目的と計画
探索	(吉村宰:アドミッション・センター)	質問紙の作成
		データ入力,後処理,基礎集計
		仮説を検証する
		変数間の関係を探る
	質的調査の方法:フィールドワークにお	フィールドワークについての一般的理解
	ける観察とインタビュー(増田研:環境	さまざまなタイプの観察, インタビュー, 記録方法につ
	科学部)	いての理解
		問題発見と,問題の構造化への手引き
	パス・ファインダー(情報探索の道しる	パス・ファインダーとは (構成, 役割:電子及び紙媒体)
	べ)の作成法	パス・ファインダーの作成法
	(山口良子・宮崎紀子・森石みどり・浦	情報資源の探索法:さまざまな情報資源の探索法と評価
	さやか:附属図書館)	法
		著作権法:引用・剽窃の説明と注意
情報	マインド・マップ(アイディアを整理す	
整理	る図)をつかった情報整理(Collins,	
	William・Ruhl, Michele:大教セ)	
	ブレイン・ストーミング(創造性を開発	批判的思考と情報探索プロセス
	するための集団的思考の技法) によるア	ブレイン・ストーミング3種(演習を含む)
	イディアの整理:レポート作成の準備と	レポートのアウトラインの作成、段落の構造
	して	引用と典拠,著作権(引用・剽窃)
	(長澤多代:大教セ)	
情報	討論によって学習内容の理解を深める	
表現	発表用資料の作成に役立つ静止画像お	スキャナによる静止画の読み込み(文献に掲載された写
	よび動画像の編集・加工(藤村 誠:工	真や図の読み込み)
	学部)	配布資料への静止画の読み込み・編集(デジタル・カメ
		ラで写した写真の Word 文書への取り込みと編集)
		動画の読み込み・編集(ビデオで撮った動画像データか
		ら、必要な部分を抽出し、抽出したデータ同士の編集・
		加工)
		パワーポイント・スライドへの静止画・動画の取り込み
		(スライドへの画像の取り込み方,色の効果)
その	ポートフォリオ(学習・教育活動で使用	
他	した資料の記録ファイル)をつかった学	
	習・教育活動の評価 (藤本将人:大教セ)	9

Excel をつかった受講生情報の管理 (三	Excel の基本操作:ワークシートの構成,セルの操作,
根眞理子:医歯薬総研)	セルの書式設定
	講義のアンケート処理:データ入力,集計,グラフ作成,
	印刷
	受講生情報の管理:課題提出状況(データ入力),成績
	の集計(関数の利用),式の作成(条件付書式),オー
	トフィルタ(条件抽出),並び替え(成績順)
	その他:ワークシートの挿入、よく利用する関数
シラバスの作成法 (Web 学習支援システ	
۵)	

第26回「教員との個別相談(コンサルティング)」

1. 個別相談の目標

教員が、コンサルタントとともに、自らの教育活動の中で生じる問題に気づき、問題解決の方策を 立てることにある。この目標達成のプロセスを通じて、次の2点の成果が期待される。

- 1) 個別面談のプロセスを通じて、量的な授業評価(学生による授業評価)によって計測できなかった質的な授業評価の指標と方法を開発する。
- 2) 部局の教員とコンサルタントの協働による授業改善のための相談体制を整備する。

2. 個別相談の対象

個別相談の希望のあった科目の中から、次の①②に該当する各 1 科目を抽出し、その科目担当教員を 面談実施対象とする。

- ①グループ・ワークを課す科目:小規模クラス(30名以下のクラス)が望ましい
- ②講義形式で進められる科目:大規模クラス(100名以上のクラス)が望ましい

面談対象の決定は以下の手順で行う。

- ・どちらの場合にも、個別面談の対象となる科目が 2005 年度に「学生による授業評価」 を受けていることを条件とする。これは、個別面談の成果を明らかにするために、2005 年度と 2006 年度の授業評価結果と比較することを想定している。必要に応じて、個人評 価項目(提出期限 2006 年 12 月 15 日)を追加し、その成果を明らかにすることも考えられる。
- ・オムニバス形式の科目、助手もしくは非常勤講師が担当する科目は対象外とする。
- ・個別面談の実施対象については、面談を希望する教員の中から FDWG (FD ワーキンググループ) が 審議をもとに決定する。対象の選定時に、選定対象となる教員と同じ部局の教員が審議に参加することを条件とする。FDWGの委員のみでこの条件が満たされない場合には、教育改善委員会委員の中の 当該部局の教員に FDWG への出席及び審議への参加を要請する。
- ・面談の希望者及び決定された対象者の個人名等の情報は原則として非公開とする。

3. 個別相談の実施体制

個別相談を実施する体制は,次のとおりである。

- ① 大学教育機能開発センター評価・FD 研究部門の教員(コンサルタント)
- ② 個別面談を受ける教員が所属する部局の教員 (the content expert)
- ③ その他の教職員:図書館員,技術職員等の教育支援スタッフ,希望する教員

4. コンサルティングのプロセス

1) ニーズの確認 (学期の始まる前) 【実施時期:2006年9月を予定】

目的:聞き取りを通して、教員のニーズを把握する。具体的には、教員が達成したいこと、問題、コンサルタントに期待することを明らかにする。これをもとに、コンサルタントがコンサルティング・プロセスを検討する。

2) データ収集【実施時期:科目によって異なる。以下同様】

対象となるデータ (複数選択可>すべてを選択するのではない)

- ① 授業観察 (コンサルタント/学部の教員/その他)
- ② 学生による中間評価(約20分):グループによる評価,個人による評価
 - 例)「教員が自分の学習動機を促進させた行動」

「教員が自分の学習動機を低下させた行動」

- ③ 授業の動画像 (DVD) →自己評価用
- ④ シラバス,配布資料,テキスト他授業において使用する文献及び資料
- ⑤ 2005年度及び2006年度の「学生による授業評価」の結果

3) 目標と方策の決定

教員とコンサルタントは、収集したデータをもとに、長所(the strength)と改善の必要な点(the weakness)を明らかにし、授業改善のための計画を立てる。

4) 実施

教員が改善計画を実行する。

5) 調査と評価

学生への調査:学生への聞き取り(指導法の変化,満足度,今後に期待すること), 学生による授業評価(複数回)

教員への調査:教員(授業担当者)への聞き取り(指導法の変化,満足度,今後の課題)

- 6) プロセスの評価
 - 一連の作業時間:8時間以内(コンサルタントの分析時間を含む)を目指す個別面談のプロセスの評価:教員,コンサルタント
- 7) 「教員との個別相談」成果の活用

得られた成果については、次の FD を通して他の教員と共有する。

- ①授業改善関係の FD: 授業の準備,進行過程で生じる問題とその解決プロセスを共有する。
- ②コンサルティング担当者養成 FD: 教員同士が授業を相互評価できるように、コンサルティング実施の手順を共有する。
- 5. 相談者数 2名(個人情報のため、所属部署・内容等については非公開とする)

第28回「全学教育 FD ワークショップ」

- (1)外国語科目 「授業改善に向けの検討と今後の展望」
- (2)教養セミナー 「成果評価基準について」

「教育マネジメントサイクルの構築と授業改善」

- (3)教養特別講義「教養特別講義-教育マネジメントサイクルの構築と授業改善」
- (4)教養セミナー 「教養セミナー担当者への提言:学生に何を学んでほしいか」

全学教育では、例年、各科目別委員会毎に「全学教育 FD ワークショップ」を開催している。 本年度は3つの委員会で4回、ワークショップが開催された。

(1) 外国語科目 「授業改善に向けての検討と今後の展望」

1. 趣旨

授業評価のデータをもとに長崎大学での外国語教育の問題点、課題について論議し、必要であれば授業改善に向けての検討、及び協議を行う。既習外国語に関しては、コミュニケーション系の授業・総合英語系の授業に分けて、授業評価のデータを検討する。また、初習外国語に関しては、各外国語別に分け、授業評価のデータを検討する。

授業評価のデータの分析と検討にともない、課題、問題点等の存在が明らかになった場合は授業 改善にむけての検討を行い、今後の授業運営に役立てることを目的とする。

2. 対象者

外国語科目委員会委員

全学教育「英語」担当教員(平成19年度担当予定者も含む) 全学教育の外国語教育に関心のある教員

3. 開催日時

平成18年12月26日(火) 13:20~(外国語科目委員会終了後)

4. 場所

環境科学部 大会議室(1階)

- 5. 参加者数:19名
- 6. プログラム
 - (1) 授業改善に向けての検討と今後の展望
 - (2) ディスカッション

(2)教養セミナー 「成績評価基準について」 「教育マネジメントサイクルの構築と授業改善」

1. 趣旨

転換教育を旨とした初年次前期の必修科目「教養セミナー」は、1クラス10名程度の規模で行う学部混成型の少人数授業である。教養セミナーの科目目標、到達目標に対応した「学生による授業評価」結果をみると、知的活動への動機づけをはじめ教養セミナーの教育目標には概ね高い肯定的評価がみられているが、一方で、成績評価基準については、到達目標に対する達成度を基準に評価するのは当然としても、掲げた到達目標へのウェイトの置き方など担当教員によって統一されておらず、学生による授業評価の自由記述欄でも「評価が先生によってばらばらである」といった成績評価に対する不公平感は強いようである。そこで本ワークショップでは、初年次少人数セミナーに二段階のみの成績評価を実施している熊本大学から本間里見助教授をお招きし、その経緯や現状などについてご講演いただき、教養セミナーの科目目標との関連性を考えながら、学生の成績評価基準の設定について議論していく。

加えて、学生による授業評価において、比較的評価の低かった「他の学生とのディスカッション」、「教員とのディスカッション」、および「授業内での発言」に関する項目を課題として、いかに学生から発言、ディスカッションを誘導させるかを討論し、教育マネジメントサイクルによる教養セミナー授業の問題解決と改善を図りたい。

2. 参加対象者

- ・平成19年度教養セミナー担当予定の教員
- 教養セミナーに関心のある教員
- ・教養セミナー委員会委員
- 3. 開催日時 平成18年12月27日(水) 14:00~16:20
- 4. 場 所 環境科学部大会議室(1階)
- 5. 参加者数 :: 28 名
- 6. プログラム
 - 1)講演

講演者:熊本大学 大学教育機能開発総合研究センター

助教授 本間 里見 先生

演 題:熊本大学初年次基礎セミナーの実践事例報告

-特に成績評価基準を中心に-

2) 話題提供

教養セミナー委員会委員長 高橋正克

3) 質疑応答ならびにディスカッション

(3) 教養特別講義 「教養特別講義一教育マネジメントサイクルの構築と授業改善一」

1. 趣 旨

「教養特別講義」は「長崎」、「平和」「海洋と文化」の3つのテーマによる講義と、学長、理事ならびに名誉教授の講演から構成され、「教養セミナー」とともに「共通基礎科目」として長崎大学初年次前期に開講される必修科目で、全学教育のなかでも重要な科目として位置づけられている。ところで、長崎大学では、平成15年度に「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)ー特色ある初年次教育の実践と改善教育マネジメントサイクルの構築」が採択され、いくつかの初年次教育科目をモデルとして、授業評価、FDによるマネジメントサイクルを構築し授業改善を図ってきている。そして今、その対象科目を全学教育の全科目へと拡充する提案がなされている。マネジメントサイクル構築に授業評価は不可欠で、あるが、教養特別講義では、講義形式で行う授業が各テーマそれぞれ3回ずつで、完結する授業形態であることから、実際上、授業評価はほとんどなされていない。木年度のFDでは、カリキュラム設計者および授業担当者が教養特別講義の現状の問題点を共有し、提唱された教養特別講義のマネジメントサイクル構築のため、サイクルのスタートである学生による授業評価の実施に向けて具体的検討を開始する。また、マネジメントサイクルの構築による授業改善の推進について議論する。

2. 参加対象者 教養特別講義の担当者

3. 開催日時 平成 19 年 1 月 19 日(金) 16:30~18:30

4. 場 所 学生プラザ 2 階多目的ホール

5. 参加者数 :13名

6. プログラム

[第1部:全学教育(教養特別講義委員会) FDワークショップ]

(1) 「教養特別講義一教育マネジメントサイクルの構築と授業改善一」

趣旨説明・資料説明:教養特別講義委員会委員長 高橋正克

(資料)

- ・学生便覧から抽出した教養特別講義の科目目標
- ・長崎大学の理念と教養特別講義における特別講演形式および講義形式「長崎」「平和」「海 洋と文化」それぞれの到達目標
- ・教養特別講義に対する学生の意見の聴取(全学教育に関する教員と学生の懇談会,全学教育カリキュラム検討ワーキングより)
- ・教養特別講義のカリキュラム構造性と学生の学習経験
- ・長崎大学教育マネジメントサイクルについて
- ・教養特別講義の今後の課題
- (2) 質疑応答・ディスカッションおよび合意事項

6. ディスカッション内容

- ・19年度の授業評価をどの時点、で実施するのか
 - → 授業形態が変則的なので時期は決めにくいが、3回セットの講義を3回行った9回目の 授業終了後の少なくとも1回実施して欲しい。

- ・18年度,授業評価用紙がきた時期がとても遅く,授業評価をしたくてもできなかった。 1固とはいわず,各教員ともそれぞれ 3回行えばいい。そのための実施体制を整える。授業担当者はわかっているので,最初から評価用紙を配布するか, 3回目に確実に配布するのが確実である。各教員ごとに評価項目の追加は可能なのか。
 - → 可能である。
- ・授業評価の対象となるのは、テーマごと(教員への授業評価)か 3つの講義全体を通してか、あるいは学長、名誉教授を入れての全体の評価なのか。
 - → 教員ごとの評価を考えている。→教員ごとなら、それぞれ3回行うのがいい。
- ・マネジメントサイクルで重要な部分で、あるなら当然すべきである。各担当教員の授業評価とは別に、 教養特別講義全体としての評価を 15回の授業終了後に実施してもらいたい。
 - → 教養特別講義の在り方,全体を見渡しての評価は必要。通常の授業評価だから 15回目に中部講堂 で行われるとの理解で、授業評価のとりまとめはしなかった(オーガナイザー)。→ そこから改善する必要がある。
- ・以上,平成 19年度の学生による授業評価は,各教員が 3回づつの授業終了後に実施する(各教員はそれぞれ 3回おこなうことになる)こと,および,授業の最後に,教養特別講義全体の評価を行うことに合意を得た。また,実施体制を整備し,情報の周知を図ることを確認した。

(4) 教養セミナー 「教養セミナー担当者への提言: 学生に何を学んでほしいか」

1. 趣 旨

高校からの転換教育を旨とした「教養セミナー」の科目目標「自主的学習へのオリエンテーション」及び到達目標の認識を図ることを趣旨とする。教養セミナーの達成感は、学生授業評価や教員アンケートの結果から、いかに目標構造を認識し、授業に働きかけていくかにかかっている。本ワークショップでは、教養セミナー担当者(特に初任担当者)への提言として、教養セミナーの現状と実施面での課題、特に本セミナーの特色である「教員・学生ともの学部混成型」「テーマは教員と学生の話し合いで決める」及び「1クラス 10 名程度の少人数セミナー」についての情報を共有するとともに、「何を学んでほしいか」「授業目標を達成するためにどのような活動をするのか」「成績評価はどうすればいいのか」などの具体的指針をディスカッションしていく。

2. 参加対象者

- ・平成19年度教養セミナー担当予定の教員
- ・教養セミナーに関心のある教員
- ・教養セミナー委員会委員
- 3. 開催日時

平成19年3月20日(火)16:30~18:00(受付:16:00~)

4. 場 所

全学教育講義棟2階206教室(環境科学部玄関上部)

- 5. 参加者数 : 29 名
- 6. プログラム
- 1) 話題提供(30分)

「長崎大学教養セミナーの現状と課題」

教養セミナー委員会委員長 高橋正克

2) 質疑応答ならびにディスカッション(1時間)

第2編 平成 19 年度

<目 次>

1. 長崎大学 FD の枠組~教育マネジメントサイクルの改訂について	
1-1. 平成 18 年度までの FD の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	$\cdots 1$
1-2. 教育マネジメントサイクル ver2. 0 の開発について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	••2
2. 平成 19 年度実施の長崎大学 FD(大学教育機能開発センター実施のもの	D)
第 31 回「長崎大学新任教員 FD オリエンテーション	
〜長崎大学歴史散歩 -150 年をふりかえる」 \cdots	6
第 32 回「新任教員向け授業実践オリエンテーション」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
第 33 回「長崎大学 FD サマーワークショップ〜課題探求・解決型授業の支援 IV 〜」	11
第 34 回「高大連携による授業改善」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
第 36 回「カリキュラムに沿った授業改善法」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
第 37 回「研究指導のデザイン」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
第 38 回「平成19年度全学教育FDワークショップ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
(第35回長崎大学 FD は他部局主催であるため本報告書には記載しない)	
3. 総括:平成 20 年度に向けての課題	
3-1. 平成 18 年度からの進展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3(
①教育マネジメントサイクル ver2.0 再構築の意義	
②FDの対応範囲の拡張について	
3-2. 平成 20 年度に向けての課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31

1. 長崎大学 FD の枠組~教育マネジメントサイクルの改訂について

1-1.平成 18 年度までの長崎大学 FD の課題

長崎大学では、各部局レベルを超えた大学全体レベルでのFDを「長崎大学FD」と称している。この長崎大学FDは、全学組織である「教育改善委員会」と、長崎大学FDの企画・実施を任務とする「大学教育機能開発センター評価・FD研究部門」とが連携をとることによって運営されている。長崎大学では、平成15年に特色ある大学教育支援プログラム(以下特色GP)「特色ある初年次教育の実践~教育マネジメントサイクルの構築」が採択された。大学教育機能開発センターではこの特色GPの実施に関わる中で、長崎大学全体におけるFDの枠組みとして「科目開発型FD」に基づいた「教育マネジメントサイクル」を全学的に提唱してきた。

「科目開発型 FD」とは、大学のカリキュラムを設計する教員(カリキュラム設計者)と実際 に授業を担当する教員(授業実践者)が共同で行う FDのことであり、次の3つのプロセスから成る。

- (1)一つの科目の具体的課題について、その解決方法を議論する。 (授業レベルの課題)
- (2)カリキュラム設計者と授業実践者双方が改善方針を合意したうえで、カリキュラム設計者は委員会などで科目目標(あるいは指針)として決定する。(授業とカリキュラムの課題)(3)決定した方針に則り、授業実践者は授業を行う。

このプロセスに示されるように、「科目開発型 FD」は、授業科目レベルとカリキュラムレベルでの教育的な課題を接合させ、教育活動の関係者が協力して共に教育改善を行うために考案されたFDの基本枠組みである。

また、「教育マネジメントサイクル」とは、「科目開発型 FD」の考え方を繰り返し行うことで、 大学の教育改善を継続的に進める基本モデルを称したものである。このサイクルは以下のプロセスから構成される。

- (1)カリキュラム設計者が定めた各科目の目標、その目標に達成するための具体的到達目標、到達目標の達成度を測る評価基準をもとに授業実践者は授業設計(シラバス作成)をする。
- (2)作成したシラバスをもとに授業を実践し、学生から授業評価を受ける。
- (3)その結果を活用して授業実践者とカリキュラム設計者が議論して共同で目標や基準の改善方針を合意する。
- (4)カリキュラム設計者は合意をもとに目標や基準を再設計して、科目の目標や基準として設定する。 \rightarrow (1)へ戻る

この「教育マネジメントサイクル」も「科目開発型 FD」同様、授業科目レベルとカリキュラムレベルでの教育改善を PDCA のプロセスの中で接合させるものとして設計され、長崎大学 FD は、教育マネジメントサイクルの構築と円滑な推進を支援することを目的として実施されてきた。

しかし、学内の全教員が FD に参加できる機会はなく、また、教育改善委員会や全学教育の 各科目別委員会の任に就いている教員も教育マネジメントサイクルについて十分に理解しうる 機会は少ないため、各部局の全教員に教育マネジメントサイクルを用いた形での教育改善を行 うよう求めるのは実際には非常に困難な問題であった。そのため実際には、大学教育機能開発 センターが中心的に実施する「長崎大学FD」において教育マネジメントサイクルを用いた全 学教育科目レベルでの教育改善が試みられてきた。

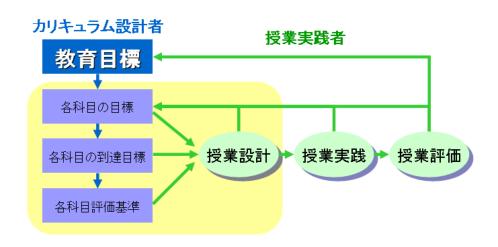


図1:教育マネジメントサイクルのプロセス

その後、大学教育機能開発センターが企画する FDの対応する範囲は広がり、科目レベルとカリキュラムレベルの教育改善の接合を目指す FDのみならず、授業の教材支援を行う「教材開発型 FD」、各教員の個別的な授業改善を支援する「個別対応型 FD」、そして長崎大学に新しく着任した教員の適応を促進する「新任教員 FD」が実施されてきた。

しかし、FD の対応範囲が広がる一方で、教育改善の基本枠組みとしての「教育マネジメントサイクル」の位置づけは改善理念としてのスローガン的な役割にとどまり、実効性を失いかけているという課題があった。また、カバーする範囲が広がった FD 群と教育マネジメントサイクルとの関係も、曖昧なままに置かれていた。教育マネジメントサイクルは、授業レベルとカリキュラムレベルでの教育改善を接合するという点においては非常に有効な意味づけをもつものであり、この長所とこれまでの成果を活かし、全学的に実効性のある FD を行うためにも、これら曖昧なままに置かれていた諸課題を解消する必要があった。これを解消するために我々が行ったのが、教育マネジメントサイクルの再構築である。

1-2.教育マネジメントサイクル ver2.0 の開発について

平成 19 年度当初の段階において、長崎大学 FD の基本枠組みである「教育マネジメントサイクル」の 課題は次の点にあった。

- (1)授業レベルとカリキュラムレベルの教育改善を接合するという教育マネジメントサイクルの意義についての理解が全学的に得られていない
- (2)教育マネジメントサイクルはいわゆる PDCA サイクルに即して構成されてはいるが、具体的なプロセスが一読しただけではわかりにくい
- (3)教育マネジメントサイクルは授業科目とカリキュラムを接合させる目的を持つものであるが、全学教育カリキュラムと専門教育カリキュラムの接合など、学士課程レベル及び大学院課程でのカリキュラム

改善および、学生支援などの全学的な教育課題をカバーする概念にはなっていないこと

これらの問題を解消すべく、我々大学教育機能開発センター評価・FD 研究部門では、教育マネジメントサイクルを新しく再構築し、「教育マネジメントサイクル ver2.0」と名づけた。この教育マネジメントサイクル ver2.0 は、次の点を意識して構築された。

- (1) PDCA サイクル (Plan-Do-Check-Act) の4つのプロセス毎でのアクションの明確化
- (2) 取り扱う教育改善のレベルを授業レベル、カリキュラムレベル、大学組織全体に分け、教育活動 全体を網羅した枠組みにすること

まず、(1)の PDCA サイクルでは、計画(Plan)一実施(Do)一点検・評価(Check)一改善(Act)の各段階で、実際の教育改善としてどのような活動を行えばいいのか概要を明示し、また、(2)教育内容のレベルでは、教育活動で改善されるべきレベルを①授業(責任主体:各教員)、②カリキュラム(責任主体:学部学科・研究科)、③学士課程・大学院課程プログラム(責任主体:大学全体)の三層に分類した。この二軸から、教員や学部・研究科などの責任主体が各レベルの教育活動において PDCA ごとでどのような教育改善活動を行うべきか明示したものが「教育マネジメントサイクル ver2.0」(図 2)である。

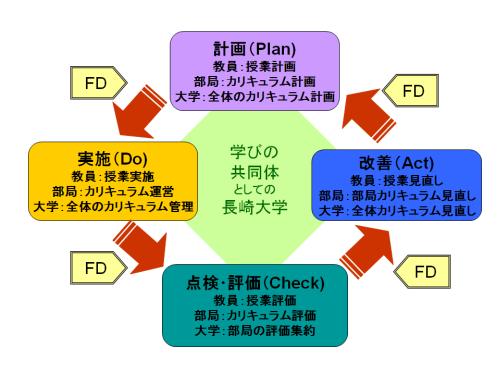


図 2 教育マネジメントサイクル ver2.0

また、教育内容の責任主体(役職)ごとにPDCAサイクルの各プロセスでの教育改善活動例を示した表を作成し(表 1)、部局の教員にも教育改善の考え方をわかりやすく示した。大学教育機能開発センターでは、今後、この「教育マネジメントサイクル ver2.0」の枠組に即して長崎大学 FD を企画し、順

表1 各レベル毎の教育改善活動例

役職	1) Plan 計画	2) Do 教育活動の実施	3)Check 評価	4) Act 改善方針の決定
教員	授業計画の策定、 到達目標の設定、 シラバスの作成	授業の実施 学習支援	学生による授業評価、 ピアレビュー(同僚評 価) 授業個別相談(大教 センター提供)	授業内容・方法の 見直し、改善
部局	各科目の到達目標 の集約、 カリキュラム計画の 策定・提示	カリキュラム運営 学習支援 部局単位での教育 実践	学生による授業評価、 卒業生・企業・第三 者 によるカリキュラム評 価	カリキュラムの見 直し、 改善案の考案・提 示
大学	全学教育・専門教育 全体としてのカリキュ ラム計画	大学全体のカリ キュラム管理 学生に対する学習 支援・環境整備など	大学についての学生 評価 各部局ごとでの授業 評価及び カリキュラム評価の 情報集約	大学教育全体の 見直し、 改善案の考案・提 示

2. 平成 19 年度実施の長崎大学 FD

教育マネジメントサイクルの改訂に伴い、本年度の FD は1)教員レベル(授業単位での改善を目指した FD)、2)部局レベル(カリキュラム単位での改善を目指した FD)、3)大学レベル(全学的なレベルでの改善を目指した FD)の3つのレベルと、PDCA サイクルのどの段階にあるかを意識した FD の企画設計を行った。

平成 19 年度に大学教育機能開発センターが実施した長崎大学 FD は、次の通りである。

	題目	主な対象レベル	段階
第 31 回	長崎大学新任教員 FD オリエンテーション ~長崎大学歴史散歩-150 年をふりかえる	授業の改善	主としてP
第 32 回	新任教員向け授業実践オリエンテーション	授業の改善	P、D段階
第 33 回	長崎大学 FD サマーワークショップ~課題探求・解決 型授業の支援Ⅳ~	授業の改善	PDCA
第 35 回	高大連携による授業改善	カリキュラムの改 善	P、D段階
第 36 回	カリキュラムに沿った授業改善法	授業の改善	C、A段階
第 37 回	研究指導のデザイン	授業の改善	P、D段階
第 38 回	平成19年度全学教育FDワークショップ	カリキュラムの改 善	C、A段階

第 31 回長崎大学 FD

「長崎大学新任教員 FD オリエンテーション:長崎大学歴史散歩-150 年をふりかえる」

1. 目的 新任教職員が、長崎および長崎大学の文化や歴史などを知ることにより、長崎大学の 構成員として有用な情報や知識を共有する。

2. 対象者 平成 18年4月4日から平成19年4月3日までに長崎大学に新たに

赴任した教職員

3. 日時 平成 19 年 4 月 4 日 (水) 12:00~17:00

4. 場所 総合教育研究棟(文教キャンパス)・経済学部(片淵キャンパス)・ 医学部・歯学部(坂本キャンパス)

5. 参加者数 教員 47 名、事務職員 19 名

6. プログラム

11:45~12:00 受付(総合教育研究棟2階多目的ホール)

12:00~12:10 教育担当理事挨拶 福永博俊 理事

12:10~12:25 特別講演①:長崎大学150年の意味からみた中期目標・中期計画

齋藤 寛 学長

12:25~13:15 文教キャンパス歴史散歩(携帯マイク:60台)

【文教キャンパス:原爆の惨禍から立ち直った新制総合大学60年の象徴】

【スタート】総合教育研究棟:21世紀・長崎大学の教育研究拠点(総合大学院)

- (1) 環境科学部正門前(旧教養部建物):1960年代~70年代/長崎大学と学生運動・教養教育
- (2) お薬の歴史資料館(薬学部):薬学の歴史を知る貴重な資料

中島憲一郎 医歯薬学総合研究科 教授

- (3) 古写真資料室(附属図書館)
- (4) 正門前パネル (三菱兵器工場跡): 文教キャンパス誕生の意味
- (5) 長崎師範原爆慰霊碑: (学徒動員の中での犠牲)
- (6) 中部講堂:水産県・長崎の拠点大学としての期待を込めた寄付建物

13:20~13:50 バス乗車(中部講堂前)・バス移動

バスルート:

国道 202 号線を南下

長崎大学→平和公園前→長崎駅前→国道 499 号線へ入り五島町電停付近から左折

新興善小学校跡(被爆時の長崎医科大学附属病院仮施設)→長崎グランドホテル:長崎県庁方面(医学伝習所発祥地)→築町→賑橋→公会堂前→諏訪神社前→片淵へ

13:50~14:10 片淵キャンパス歴史散歩

【片淵キャンパス:キャンパスが語る一世紀の伝統】

- (1) 入り口の架橋:100年間学生が通い続けた石畳
- (2) 長崎高商門標:「第三高商」の誇り高い伝統の原点
- (3) 瓊林会館・赤レンガ倉庫:原爆被災を免れた貴重な長崎大学の歴史的建物。同窓会の強い結束

14:10~14:30 特別講演②:高商 100 年と武藤文庫(経済学部新館 101 教室)

柴多一雄 経済学部 教授

14:30~14:55 武藤文庫の案内

附属図書館経済学部分館

14:55~15:05 休憩(経済学部中庭周辺)

15:10~15:35 バス移動(坂本へ)

15:35~16:35 坂本キャンパス歴史散歩

【坂本キャンパス:生命科学の拠点であり続ける理由~150年の経験】

- (1) 附属病院門柱:8月9日の「証人」
- (2) 西洋医学史展示 (ポンペ会館2階展示室・附属図書館医学分館2階展示室)

相川忠臣 医歯薬学総合研究科 教授

(3) 原研2号館1階展示室(原爆後障害医療研究施設)

三根真理子 医歯薬学総合研究科 助教授

16:35~16:55 特別講演③:近代西洋医学教育の父にして長崎大学の創立者:ポンペ・ファン・メーデルフォールト(医学部第1講義室)

相川忠臣 医歯薬学総合研究科 教授

16:55~17:00 学長総括(医学部基礎研究棟玄関ロビー)・写真撮影

【主 催】長崎大学教育改善委員会

【企画・実施】大学教育機能開発センター

【協 力】附属図書館

第32回長崎大学FD

「新任教員向け授業実践オリエンテーション」

1. 目的 長崎大学の教育改善のしくみとその実践方法を理解するとともに、 授業支援体制を知ること。

2. 対象者 2007年4月に着任した教員(主として助教)

3. 日時 2007年5月7日(月) 13:00-16:10

4. 場所 総合教育研究棟 2階 多目的ホール

5. 参加者数 70名

6. プログラム

13:00-13:45 「長崎大学の教育理念と教育改善」 福永博俊(理事(教育担当))

内 容:本学の教育理念および本学における現状の教務システムおよび教育改善システムを説明するとともに、学生や卒業生等に対する種々のアンケート調査結果について紹介する。

13:45-14:30 「教育マネジメントサイクルの枠組みと授業づくりの方法」

岡田佳子・長澤多代(大学教育機能開発センター 評価・FD 研究部門)

内容:教育マネジメントサイクルの枠組みを説明し、「計画(Plan)」「実施(Do)」「点検・評価(Check)」「改善(Act)」の各段階における教育改善の試みを説明する。具体的には、シラバスの作成法、授業の進行法、成績評価の方法、「学生による授業評価」の概要について説明する。

14:30-14:40 休憩

14:40-15:00 「附属図書館の役割(教育支援のために)」

郷原正好・山口良子(附属図書館・学術情報部 学術情報サービス課)

内 容:サービス概要,図書購入リクエスト制度,フロアーの活用(ライブラリラウンジなど),電子ジャーナルリンク集・データベースの紹介,情報リテラシー教育(図書館ガイダンス)など。

15:00-15:20 「情報通信技術の活用」

野崎剛一(情報メディア基盤センター 情報基盤部門)

内 容:学生の学習を充実させるために、教員の教授内容・方法の改善へ情報通信技術の活用 を図ることは極めて重要となってきています。本研修では、本学におけるコンピュータとキャ ンパス情報ネットワークサービスに関して知っておくべきことに関して概説します。

特に、情報メディア基盤センターが提供する本学特有のサービス内容や情報セキュリティ、情報保護、情報共有などに関する情報提供、注意点の説明を行う。

15:20-16:10 「ハラスメントの事例紹介と防止さらに学生のメンタルケア」 富永ちはる (学生支援部 学生支援課) 内 容:学生何でも相談室の現状やハラスメント相談の事例をカウンセラーが紹介する。ハラスメントを予防するためにはまず、学生との信頼関係づくりが大切であり、教職員自身のメンタルケアも重要である。学生から相談されたら、学生が引きこもり始めたら、どのように対応したらよいかを一緒に考え、学生に関する様々な問題の予防について研修する。

【主 催】教育改善委員会

【企画・実施】大学教育機能開発センター

【協 力】附属図書館、情報メディア基盤センター、学生支援部

<アンケート結果>回答 41 名

●全般的に見て今回の授業実践 FD に満足しましたか?

	人数	%
とても満足した	13	31.7%
満足した	19	46.3%
どちらでもない	6	14.6%
満足しなかった	1	2.4%
全く満足しなかった	2	4.9%
計	41	100.0%

●長崎大学の教育改善の枠組みについて理解が深まりましたか?

	人数	%
とても深まった	13	31.7%
深まった	17	41.5%
どちらでもない	5	12.2%
あまり深まらなかった	4	9.8%
全く深まらなかった	2	4.9%
計	41	100.0%

●授業実践に関する興味・関心が高まりましたか?

	人数	₩
とても高まった	13	31.7%
高まった	19	46.3%
どちらでもない	5	12.2%
高まらなかった	2	4.9%
全く高まらなかった	2	4.9%
計	41	100.0%

●今回の授業実践 FD は授業実践に役立つと思いますか?

	人数	%
とてもそう思う	15	36.6%
そう思う	18	43.9%
どちらでもない	3	7.3%
そう思わない	4	9.8%
全くそう思わない	1	2.4%
計	41	100.0%

【今回の授業実践 FD で印象に残った点】

- ・大変熱心に教育のことを考えていらっしゃることがよくわかりました。前任の大学の方が講義を担当 することが多かったのですがその時に聴きたかったです。
- ・授業実践オリエンテーションの部分がとても勉強になった。具体的だったので早速授業にいかしていきたい。
- ・1年前に本学に来ましたがまだ知らないことが多く、特に情報、図書館関係は役に立ちそうです。ガイダンスとしてはいいと思います。
- ・教育システムマネジメントについて基本的な考え方がよく理解できました。
- ・メンタルケアに払うべき留意点について理解が深まりました。
- ・それぞれの内容は参考になった。見逃しがちな重大なことに対する再確認という意見ではよかった。
- ・シラバスの作成について。授業の PDCA について
- ・教育の改善のために大変良い取り組みだと思います。ダメ教員を排除するシステムがあればさらに良いかと思うのですが。
- ・授業の進め方や組み立て方がまるで手探り状態だったのでサポートしてくれる機関・体制が色々とあることを知り、とても役立った。
- ・内容がもう少し広く浅くの方がいいと思う
- ・抽象的・一般的な内容が多く、分かりづらかった
- ・米国のマネをしているという印象
- 長いと思います
- ・シラバスの作成方法について主語が教員にならないような文章にするというアドバイスは役に立ちました。納得できました。
- 予定している時間に対して内容が多い。もう少し簡素に説明するか時間を長めにとって下さい。
- ・シラバスが契約書であること
- ・教育マネジメントサイクルの重要性は理解できた。しかしながら時間の概念が半期、一年の単位で考えられており、さらに短期(たとえば 1 回ごと、数回ごと)でのマネジメントを検討していかないと一年後学生だけが取り残される可能性があるのでは?
- 学生のメンタルケア
- ・時間を守って実施してほしい。
- ・授業改善については現場の意識との乖離が大きい。もっと内部の教員とのコミュニケーションが必要。

第 33 回長崎大学 FD

「長崎大学 FD サマーワークショップ~課題探求・解決型授業の支援IV~」

1.目的 教員が、課題探求・解決型授業の計画・実施に有用な情報活用プロセス(情報探索・整理・表現) および、それらに必要な学習内容・指導法・教材の開発法について理解を深める。これらのワークショップは、問題解決能力や自己表現力の育成を目標とする科目の授業準備・実践に大いに役立つと考えられる。

2. 対象者 参加を希望する全教職員(非常勤講師を含む)

3. 日時 第1期:2007年8月29日(水)~8月31日(金)

第2期:2007年9月10日(月)~9月12日(水)

※実施時間は1日あたり次の3コマとする:①10:00-12:00,②13:00-15:00,③15:15-17:15

4. 場所 全学教育棟 (環境科学部) 2 階 205 番教室, 207 番教室

情報メディア基盤センター第1端末室

5. 参加者数 のべ143名

6. プログラム

第1期

日程	時間	題目	講師	場所
8/29 (水)	10:00-12:00	マインド・マップを使った情報整理	ルール・M;コリンズ・W (大学教育機能開発センター)	205 番
	13:00-15:00	パスファインダーの作成法	山口良子、山本知美 (附属図書館)	207 番
	15:15-17:15	大規模クラスをどう教えるか :授業設計から講義のコツまで	佐藤浩章 (愛媛大学 教育·学生支援機構)	205 番
	10:00-12:00	Excel 入門: 受講生情報の管理を例に	三根眞理子(医歯薬学総合研究科)	207番
8/30	13:00-15:00	学生との会話力を高めよう: 交流分析とスキ ルアップ演習	富永ちはる (保健・医療推進センター)	205 番
(木)	15:15-17:15	レポート課題の出し方と作成支援の実践	西田孝洋[医歯薬学総合研究科 (薬)], 鈴木 斉[経済学部], 上繁義史; 丸田英徳; 柳生大輔[情 報メディア基盤センター]	205 番
8/31 (金)	10:00-12:00	発表用資料作成のための 画像の編集・加工	藤村 誠〔工学部〕、丸田英徳;長崎隆志〔情報メディア基盤センター〕	207 番
	13:00-15:00	フィールドワークで問題を発見する : インタビューの作法を中心に	増田 研 (環境科学部)	205 番

第2期

9/10 (月)	10:00-12:00	マインド・マップを使った情報整理	ルール・M、コリンズ・W (大学教育機能開発センター)	205 番
	13:00-15:00	レポート課題の出し方と作成支援の実践	西田孝洋[医歯薬学総合研究科 (薬)], 鈴木 斉[経済学部], 上繁義史;丸田英徳;柳生大輔[情 報メディア基盤センター]	205 番
	15:15-17:15	大学を元気にするコミュニケーション力とは: あなたの目線は学生にしっかりと 向いていますか	高橋真義 (桜美林大学大学院 大学アドミニストレーション専攻)	205 番
	10:00-12:00	発表用資料作成のための画像の編集・加工	藤村 誠〔工学部〕,丸田英徳;長崎隆志〔情報メディア基盤センター〕	207 番
9/11 (火)	13:00-15:00	学生との会話力を高めよう : 交流分析とスキルアップ演習	富永ちはる(学生支援課)	205 番
	15:15-17:15	パスファインダーの作成法	山口良子;山本知美 (附属図書館)	205 番
9/12 (水)	10:00-12:00	質問紙によるデータ収集及びその分析	吉村 宰 (アドミッションセンター)	※情メ
	13:00-15:00	フィールドワークで問題を発見する : インタビューの作法を中心に	増田 研 (環境科学部)	205 番

※情報メディア基盤センター第1端末室

7. 参加者数

	マインド・マップを使った情報整理	12	
<i>**</i> 4 ₩0	レポート課題の出し方と作成支援の実践	8	
第1期	大学を元気にするコミュニケーションカとは:	27	
	あなたの目線は学生にしっかりと向いていますか	21	
	発表用資料作成のための画像の編集・加工	3	
小計	学生との会話力を高めよう:交流分析とスキルアップ演習	11	
90名	パスファインダーの作成法	12	
90 1	質問紙によるデータ収集及びその分析	13	
	フィールドワークで問題を発見する:インタビューの作法を中心に	4	
第2期	マインド・マップを使った情報整理	8	
	レポート課題の出し方と作成支援の実践	7	
	大学を元気にするコミュニケーションカとは		
	:あなたの目線は学生にしっかりと向いていますか	11	
小計	発表用資料作成のための画像の編集・加工	6	
53 名	学生との会話力を高めよう:交流分析とスキルアップ演習	6	

パスファインダーの作成法	3
質問紙によるデータ収集及びその分析	8
フィールドワークで問題を発見する:インタビューの作法を中心に	4
計	143

<所属別>(*所属無回答の53名分を除く)

	教育	経 済	I	水産	環境	医	歯	薬	医歯薬	留セ	熱 研	情 セ	計	割合
教授	2	4			2	2							10	14.9%
准教授	6		2		4		1	2		6	2	1	24	35.8%
講師	5	2				7							14	20.9%
助教			2			1	5	1	9		1		19	28.4%
計	13	6	4	0	6	10	6	3	9	6	3	1	67	100.0%
割合	19.4%	9.0%	6.0%	0.0%	9.0%	14.9%	9.0%	4.5%	13.4%	9.0%	4.5%	1.5%	100.0%	

8. アンケート報告

●全般的に見て今回のプログラムに満足しましたか?

	回答数	%
満足した	75	63.0%
やや満足した	34	28.6%
あまり満足しなかった	10	8.4%
満足しなかった	0	0.0%
計	119	100.0%

●全般的に見てこのプログラムは今後の授業実践に役立つと思いますか?

	回答数	%
思った	73	61.3%
まあまあ思った	32	26.9%
あまり思わなかった	13	10.9%
思わなかった	1	0.8%
計	119	100.0%

●FD サマーワークショップの広報は適切だと感じましたか?

	回答数	%
適切だった	34	38.2%
まあまあ適切だった	32	36.0%
あまり適切ではなかった	20	22.5%

適切ではなかった	3	3.4%
計	89	100.0%

●今後のサマーワークショップや長崎大学 FD で採りあげてほしいテーマ・内容をお書き下さい。

- ・学生とのコミュニケーションのスキルアップ、講義提出物の管理方法のアイデアなど
- ・今の小中高での授業の現状(問題点)を知りたい
- ・魅力的な講義
- ・e-learning のコンテンツ作成
- ・ 企画書の書き方
- ・専門科目の授業改善について
- ・プレゼンの手法関連、ライティングスキル
- ・やはり大規模クラスの授業改善のやり方
- ・アカデミックガイダンス、GPA など学習支援の事例研究
- ・Excel 中級編のようなプログラムがあればと思いました
- · 英語、経済学、看護学
- ・ゼミの進め方(ディベートの仕方、発表のさせ方、学生との交流の仕方(ゼミ時間以外も含め)
- ・レポートの課題の出し方の基礎
- ・知的財産権、著作権、研究上の倫理・特に研究者間、Authorship,役割分担のこと etc+アカデミックハラスメント
- ・大規模授業展開のプログラムを何回か開いてほしい
- ・画像やテキストをスキャナーでそれに取り込む方法など
- ・ブレーンストーミング、レポートの祭典について
- ・先生のサポートになる方法、先生達のコミュニケーションのやりかたなど
- ・コーチング
- ・傾聴のスキルのトレーニング
- ・コンピュータの使用方法
- ・色々な方法論の先生の話をききたい。

●今回のサマーワークショップの企画・運営について改善すべき点があればお書き下さい。

- ・時間をスピーディーにすすめてほしい
- ・クーラーが効きすぎていて寒かった。空調を考えていただければありがたいです。
- ・no33 だというのに今回はじめて知りました。
- ・広報をもう少し早くすれば良い。HTMLベースで申し込みができたらいいのでは。
- ・回数、期間をもっと参加しやすくしてほしい
- ・「課題探求・解決型授業の支援」のテーマからそれてきたように感じるワークショップがある
- ・広報をもっと早くしてほしかった
- 時間が長すぎる
- ・事前に十分な内容を知らせてほしい

- ・日程を早めに教えていただけると助かります
- ・広報の徹底と参加の義務化が必要かもしれません
- とても勉強になっています
- ・時間が不足です。できればシリーズなど時間をもっと組んでほしいです。1日きりでは使える段階までは難しいように思います。
- ・毎回とても楽しかった。どのワークショップも充実していた。企画してくださった方に心から感謝しています。授業のためだけではなく、自分の研究の糧となるスキルも身につけることができました。ありがとうございました。
- ・テーマと内容についてもう少し情報があった方がいいと思います

9.今後の課題

- ・広報の早期化、徹底を望む意見が複数あったため、対応が必要
- ・実施時間に対して、「短い」「長い」という両方の意見があったため、今後の検討課題としたい。
- ・「課題探求・解決型授業の支援」のテーマを続けることが適切か否か考えていく必要がある。

第34回長崎大学FD

「高大連携による授業改善」

平成19年度高大連携事業に係わる「県内高等学校教員と長崎大学教員との協議会」(講義担当者会)と兼ねて、FDを実施した。

- 1.目的 長崎大学と高校の講義・授業担当者が直接意見交換することにより、授業内 容や学生・生徒の状況等についての理解を深め、高校生対象の公開講座・出前講座に おける講義や大学入学当初の講義及び高校での授業に資することを目的とする。
- 2. 対象者 全学教育に携わる教員(大学側)、高校の授業担当者(高校側) <県内高等学校側>
 - ・文系科目担当教員(英語2名、国語1名)
 - ·理系科目担当教員(数学1名、物理1名、化学1名)
 - · 上記以外若干名

<大学側>

- · 文系科目担当教員 (3 名)
- ·理系科目担当教員(3名)
- · 上記以外若干名
- 3. 日時 平成 20 年 2 月 19 日 (火) 15:00~17:00
- 4. 場所 全学教育棟 206 番教室
- 5. プログラム
 - ① 導入・・・・予備調査結果の説明や研修ポイントについての意見交換
 - ②分科会・・・・・文系会、理系会に分かれ意見交換
 - ③全体シェア、まとめ

【主催】長崎大学教育改善委員会/平成19年度高大連携事業協議会

【企画・実施】大学教育機能開発センター/平成 19 年度高大連携事業協議会

- 6. 事前調査の集計結果
- (1) 高校生対象の公開講座について、別紙資料をご覧頂き、コメントをお願い致します。

高校生に期待される教育効果:

- ・大学で研究されている最先端の内容について先生から直に講義を受ける機会を持つことは生徒の興味・関心や学習意欲を高めると同時に、将来の進路志望をより明確にすることにつながる。
- ・最先端の科学技術や身の回りの現象に対する科学的アプローチを学ぶよい機会であると思います。さらに、研究をするために必要なもの(数学や科学の知識、興味、関心など)を早い時期に知り、将来を意識した学習ができるのではないでしょうか。
- ・興味・関心を共有する他校の高校生と共に学ぶ場を得ることは、情報交換をしたり、良い刺激を得る 機会となり、向学心を高めることにつながる。

- ・研究の最先端に触れることによる興味関心の高揚。
- ・高校の学習と大学での研究の連続性の感得。
- ・ 高校教育と連動する専門的な部分を垣間見せることによって、学習や進路へのモチベーションを 高める。
- ・理系生徒に対しては、高校で各教科として学んでいるものが、学問としてどうつながっているのかを (講座 I、IVタイプ)、文系生徒に対しては、社会で起こっている諸問題が、どう学問とつながって いくのかを (講座 II タイプ) 伝えることのできる良い機会と思われます。
- ・大学での研究内容の一端を知る機会としての効果はあると思う。研究が多岐にわたることや、専門知識に裏付けされた研究の深まりを知ることは大学進学を志す高校生に「学ぶ」ことへの覚悟を伺い得るではないか。
- ・大学での自分の専攻に対する大きなモーティベーションとなる。高校での学習のモチベーションも高 める。

内容とレベル: ○でお囲み下さい。

内 容: (a) もっと一般的が良い (b) 現状で良い (c)もっと専門的が良い (c)もっと低レベルがよい (b) 現状で良い (c)もっと高レベルが良い

- ・平成19年度のアンケート結果から、「内容が(ある程度)理解できた」「(大)満足」と回答している生徒がほとんどであることからも、講義の内容及びレベルは適切であると思われる。「内容が理解できず」「やや不満」と回答した生徒が若干いたようであるが、参加する生徒の意識は全体的にかなり高いので、より専門性の高い内容をわかりやすく講義していただくことを期待していると考える。
- ・内容:現状で良い。レベル:現状で良い。
- それぞれのめあてがあり、一律に言えるものではない。
- ・内容:もっと一般的が良い。レベル:もっと低レベルがよい。
- ・内容:現状で良い。レベル:もっと低レベルがよい。→本生徒はIVのみの受講、"むずかしかったが、 おもしろかった"との感想がありました。
- ・内容:もっと一般的が良い。現状で良い。レベル:もっと低レベルがよい。現状で良い。→高校で学んでいる内容が大学での学びにどのようにつながっていくのか、学問間のつながりがどうなっていくのかなどを伺い知るような内容が盛り込まれるとさらによいと思う。
- ・内容:もっと一般的が良い。レベル:もっと低レベルがよい。

授業内容・方法や運営方法:

- ・講座によってはかなり専門性の高い内容も含まれているので、議論をしたり、意見交換をする場を設定して、疑問点を解決しながらすすめることも必要ではないかと考える。
- ・受講生の半数が高校1、2年生であることを考えると、現在のままでよいのではないかと思います。
- ・講義であれば、できるだけ企業や生活場面等における具体的な応用例を例示していただくとともに、 最先端の研究が、今、何を目指しているのか展望やトレンドを聴かせたい。
- ・できるだけ、体験型・参加型の授業手法を組み入れて、聴くだけでない主体的に関わる学びの場としていただきたい。
- ・高校で授業が進んでいない1,2年生でも受講しやすい授業内容・方法を工夫していただきたい。
- ・テキストを拝見した限りの印象では、Ⅱの内容が集中講義的に続くと、受講生はかなり負担を感じる

のではないかと思いました。

- ・講義だけではなく、大学という施設を有効に利用するような授業内容が増えるとよい。
- ・授業時間は高校と同じ50分とし、必要な場合は2コマ(100分)受講させる。

問題点やコメントなど:

- ・受講生の層(学年や校種)や時間を考えると現在の内容は適当であると思います。しかし、高校で学習する理科や数学とのつながりをさらに意識して題材選びなどをしていただくと、生徒はさらに興味をもって学習することができるのではないかと思います。
- ・特になし。
- ・高校の授業・生徒の実態をご覧になった機会が少なく、実態にそぐわぬ講義になることがあること。
- ・一連の講義のめあてと達成目標が生徒に明示されておらず、各時間の意味づけや終了時の自己評価が 難しく、達成感が味わいにくいこと。
- ・現在行われている時期は、3年生にとっては本格的な受験指導に入っているので1,2年生を受講させたい。
- ・授業内容に討論や演習といった形式は含まれているのでしょうか。
- ・夏期補習と日程的に重なるので生徒が参加しにくい。
- ・集中ではなく分散実施などはどうか。
- ・講座IVを除く講座 I ~IIIにおいては、平成19年度募集人員の3割の参加者にとどまっている。これは、講座の内容が高校生に十分に魅力的なものとしてとらえられていないことを示唆していると思われます。大学での研究の一端を垣間見せる部分に力点があるのではないでしょうか。
- ・一部の教員だけではなく、全学教育を担当している教員全員が参加できるように。($4\sim6$ 年に1回担当する。)

(2) 高校生対象の出前講座について、コメントをお願い致します。

- ・本校では、例年、高校2年生を対象とした「進路学習」の一環として講義をお願いしている。それぞれの生徒が自らの進路志望に添った講座を受講し、知識を得ると同時に学習意欲を喚起することを目的の一つとしている。生徒の知的好奇心を刺激し、向学心を高めるような内容の講義を期待しております。
- ・毎年いろいろな先生の講義を拝聴していますが、生徒のために実験器具やシミュレーションなど工夫 していただき感謝しています。私自身は毎回興味を持って聞くことができる内容なのですが、生徒に とっては(特に高校2年生を対象とする場合が多いため)まだ学習していない内容が含まれることが あり、やや難しく感じることもあるようです。私たち高校の教員がそのサポートをすることもおもし ろいのではないかとも思います。
- ・常識を超える現象や現実に触れて知的興奮を喚起するような内容を盛り込んで頂きたい。
- ・製品化や法制化、実生活への応用等、実生活に即した例示をふんだんに入れて頂くとともに、今後の 発展性や可能性についての展望・夢を語って頂きたい。
- ・1年生の1学期に学部、学術研究の一環として実施したいと考えているので、その学部・学科の特性 や選択にあたっての適性、高校時代に学んでおきたいことなどについて講演いただけると幸いであ る。

- ・貴重な時間をさいて来ていただき、毎回感謝しております。生徒の事後アンケートによれば、"解りやすく心に響いた"講座は具体的な事象から学問への視点を与えてくれるもののようです。要望は大学・学部の紹介に時間を取りすぎる講座については、再考願いたい。ということです。
- ・貴重な機会なので今後も継続してほしい。
- ・各高校ごとの実施に無理があると思われるので、定期的に高校生が大学に出向いて講義を受けられる 環境を整えてはどうか。
- ・すばらしい企画と思います。できれば1回ではなく、連続性を大切にして数回同じテーマでするのもおもしろいと思います。

(3)大学入学当初の授業内容について、別紙のシラバス資料をご覧頂き、コメントをお願い致します。

	シラバスの内容に現状の高校生では履修するのが困難だろうと思われる点、高校の学
	習指導要領の内容との連続性に欠けると思われる点などについて
教養セミナー	・複数の学部の学生が混在するクラス構成というユニークな形態が大変興味深い。活
	動内容・形態自体も多様なものが予定されているが、学生相互の教育力にも期待が
	持てる。
	・シラバスの授業内容に具体性が乏しく、判断できない。
	・具体的実施方法(内容)が明確でないためコメントしにくいが、ねらいや方向性に
	ついては良いものであると考える。高校においても総合学習等を通じて、知的探究
	活動の充実やプレゼンテーション能力を育成する試みが行われつつある現状であ
	ることから考えて、履修の困難さは感じられない。
	問題なし。
	・高校生には、「聞く力」はもとより「表現する力」を向上させる機会が十分でない
	ので、ディスカッションの設定は望ましい。
特別講義	・生活の場である長崎について理解を深め、学生生活をより有意義なものにしようと
	いう意図が伺えるユニークな講義である。活躍されている一般の方の講演等を組み
	入れると、さらに地域に根ざした現実感のある内容になるのではないかと思われ
	る。
	・身近な素材を扱っており、ぜひ受講させたい内容であり、履修に無理がない。
	・高校においては、総論的な平和学習を除いて、長崎に焦点をしぼった教養講座等は、
	特定の学校以外では行われていないため、学生はむしろ興味を持って取り組めると
	感じられる。いわゆる「長崎学」を長崎大学で講義されることに大きな意義を感じ
	る。
	・問題なし。
	・総学等で地元を知る機会は多少増えていると思うが、しっかりした知識を持つこと
	は大切だと思う。
情報	・一般的水準の者にとって適切な内容であると思われる。
	・既にかなり習熟している生徒もおり、(パワーポイントも中学時から学習する)様々
	なレベルの講座が組まれているのは望ましい。

・ワード、エクセル、パワーポイントについては、中学校でも取り扱っている。 また高校でも学習しているため、各学科で必要(特色のある)使用方法のみの学習 でもよいのではないでしょうか。 ・オフィス関係(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の履修は基礎的なので可 能。プログラミングにおける操作方法は困難か。Excelの関数もデータ解析演 習等、数学的になりすぎると、連続性に欠けると思われる。 ・高校での履修内容と重なることが多いように思う。情報交換を行い、高校との役割 を分けるのがよいのではないか。情報モラル等はもっと充実させたのがよいと思 う。 英語 ・英語の学力の習得につながる講義内容である。特にコミュニケーションについては 到達目標を設定して学生自身が到達度をチェックできるようなシステムがあれば、 興味を持って継続した学習ができるのではないかと考える。(英語) ・シラバスが目次の列挙になっており、いつまでにどれくらいの水準を学習するのか 判断できない。 発音の「同化」等の用語は一般的に学んでおらず、解説が必要。 ・特に履修が困難だと思われる点はありません。今の高校英語では残念ながらリスニ ングカ―音の脱落や結合などを含めて―や表現力(会話、作文)の力を十分につけ ていないように思います。貴学のカリキュラムでは、そのような点が十分補われて いるのではないかと思います。 ・連続性の点では問題なし。TOEIC講座の中の文法指導はどの程度おこなわれて いるのか。お伺いしたい。 ・(専門外なのでよくわかりませんが)TOEIC・・・点以上で単位認定などとル ールを決めてはいかがでしょうか。(よくわかりません) ・英語の授業ですが、現在は時事英語の授業が開かれています。長崎大学に入学して くる学生の英語レベル、英語能力上の弱点、高校と大学初年次教育の連携という観 点から考えると別の内容が望ましいように思われます。 一部の学部では学部の学生に合わせてかなり高いレベルのテキストを使用している ので、そのような授業は一般の高校生には困難かもしれません。その他の場合はネ イティブの先生も含め授業参観は可能かと思います。また、文学や時事英語等に特 化している授業は専門性が高く、やはり高校生には困難かもしれません。 人文 ・さまざまな内容の講義が選択できるようになっているが、さらに現代に焦点を合わ せた内容の講義があれば、そのような分野に興味のある学生が意欲的に受講するの ではないかと考える。 ・地方の生徒になるほど、新書レベルの論理的な文章の読書が不足しており、観念的 抽象的用語の理解が思う以上に低い懸念がある。 ・素養としては、世界史・日本史・地理のいずれか一つに触れている程度と思って頂 きたい。 ・高校の授業から連続性、発展性があり興味深いです。機会があれば私が学びたい位

	です。
	・特に問題なし。
	・モラルや常識に欠けた高校生も増えてきているので、これらに関する内容を盛り込
	んではどうでしょうか。
数学	・確率分布は深く学習していない場合があり、留意が必要。他は水準として適切であ
	る。
	・本校文系クラス(8クラス中3クラス)は、数Ⅰ・Ⅱ・A・Bまでの履修なので、
	数Ⅲ・Cの微・積分、行列などは、履修しておりませんので、ご配慮ください。理
	系クラスにおいては全生徒、数Ⅲ・Cまで履修しております。
	・特に問題なし。
	・解析や幾何などは盛り込まないのでしょうか。
	・基礎から学べる要素も大切にしてもらえたらと思います。(理数系の苦手な学生に
	対して)
物理	・「暮らしの物理科学」: 物理選択者でも「圧力」や「密度」の習得が不十分な生徒が
	いますので、ベルヌーイの定理やサイフォンの原理の説明の前に詳しく説明をする
	必要があるのではないでしょうか。「身近にある不思議な物理」:回転運動について
	は高校物理では扱いませんが、このように実験をして現象から考えるという方法は
	おもしろいと思います。
	・内容に問題はない。ただし、「暮らしの物理科学」後半トピックスは文系も対応で
	きるが前半は式等に対応できない。
	・「モーターの科学」は理系には大丈夫だが文系には無理。
	・「身近にある不思議な物理」おもしろい。よい試み。
	・高校での内容と適切に接続されているうえに、身の回りで実用されている事を取り
	上げてあり、すばらしいと思います。
	- 「モーターの科学」の授業内容については、各回の見出しだけではなく、詳細を伺
	いたいところである。連続性については適当。
	・基礎から学べる要素も大切にしてもらえたらと思います。(理数系の苦手な学生に
	対して)
化学	・高校で化学の基礎を学んだ上で、身の回りの化学に着目した講義であり、生徒の関
	心も高まることと思います。
	・文系生徒にとっては、本人の意欲にもよるが、理解が困難な点があるようだ。(例)
	月1: PHのところ、水4: (高分子、有機化学)、水2(基礎としての高校有機化
	学) 理科総合Aと生物の2科目のみ履修が文系。理系生徒にとっては適切。
	・基礎から学べる要素も大切にしてもらえたらと思います。(理数系の苦手な学生に
	対して)
	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \

7. 協議内容

1) . 文系の協議

○高校生対象の公開講座と出前講義の内容と方法について

- ・ 講義内容について高校生がどこまでわかっているのか把握できないことがある。生徒の理解度について担当者へのフィードバックが必要だと感じる。
- ・ 講義内容について達成目標がどこにあるのか不明瞭なことが多いのでもっと明瞭に示したほうがいいのではないか。
- 単発で講義をすることについては、目標をどこに置けばいいかなど構成上の難しさもあるため、十分な事前の打ち合わせが必要と考える。
- ・ これまでは講義形式の授業が多いが、ゼミ形式など少人数で参加できる形をとってもいいのではない か。
- 理系分野の講義内容については、現在の文系の高校生では対応できないだろうと感じる。
- 現在は、大学の先生に来ていただくだけになっているため、生徒の理解度を高めるためにも事前の打ち合わせをもっと行っていくといい。
- 現在、出前講座は学部ごとに要請が来ているが、どのようなテーマが聞きたいかなど、テーマに即した要請があってもいいのではないか。

○大学初年次教育の授業内容と方法の高大接続について

- ・ 初年次学生は、発言力・ディスカッション力・コミュニケーション力に欠けると感じる。
- ・ 自発的に意見を言うことが少なく、受け身の学生が多い。
- ・ 初年次学生は、断片的な知識はあるが、それがコミュニケーション力につながらない。
- 学校内の授業のみならず、校外での継続的な学習を促進する必要があるのではないか。
- 高校でも調べ学習の機会は増えているが、高校間でその実践の様子は全く異なることに留意する必要がある。
- ・ 現在の高校生は新書レベルの本を読まない。抽象的な言葉に弱い傾向がある。
- ・ 総合的な学習の時間は進路学習・自己発見学習に使われる傾向がある。
- コミュニケーション力とはどんな力を指すのかもっと具体的になるといいのではないか。

2) 理系の協議

○高校生対象の公開講座と出前講義の内容と方法について

- ・ 出前講義ではどういう生徒が対象であるかの情報が欲しい。担当者間で事前打ち合わせが望ましい。
- 大学教員の専門と高校の希望テーマにミスマッチはないか。
- 公開講座や出前講義は、高校での学習や進路への動機付けの役割が大きい。
- ・ 公開講座テキストは受講生しか配布されていない。今回初めて見た。テキストではテクニカル用語が 多い。毎時間毎にこれでは高校生は辛い。
- ・ 公開講座のテキストの中味が難しい。
- 最先端すぎる。
- ・ 高校1年生も受講するので、中学卒の学力に合わせて講義し、内容は高校のこれからの学習意欲を上 げ、将来の動機付けになるものが良い。
- 基礎を習っていなくてもおもしろいと感じる内容が良い。
- ・ 公開講座のテキストや内容について、印刷前に事前の意見交換の場を用意するのはどうか。原稿を事 前に送付してはどうか。
- ・ 興味あると手を挙げる生徒が多いが、ついていけない。毎年見直したことによって、3から4年経って、生徒の関心を持つようになった例がある。
- 講座実施後に内容に関する意見交換を行ってチェックしてはどうか。

○大学初年次教育の授業内容と方法の高大接続について

- ・ 数学 C に確率が含まれているが、高校では時間が足りなくて十分指導できない。高等学校によって 状況は異なるが。
- ・ 情報については、実習がメインの高等学校、実習をほとんどしていない高等学校がある。
- ・ 情報のシラバスで見ると、中・高で既習の内容が半分くらいある。 Excel、Word は入学前に高校で教えている。
- ・ 物理のシラバスを見ると、高校で文系コースの学生は履修不可能な内容がある。履修の前提になる学力がない。物理のリテラシーをどのようにつけるのか。
- ・ 化学のあるシラバスを見ると、興味を持てる内容で、文系コースの学生も大丈夫と思われる。
- ・ 文系コースの学生は理科では、中学校から学習せずに大学に入っているとして教育した方が良い。

8. アンケートの集計結果

	思う	まあまあ 思う	あまり 思わない	思わない	計
1. 本会が高大連携の改善に役立つと思うか	10	4	0	0	14
1. 本会が高人建物の改善に伐立って心力が	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	100.0%
2 オ会が初年を教育の改美に処立った田さん	7	6	1	0	14
2. 本会が初年次教育の改善に役立つと思うか	50.0%	42.9%	7.1%	0.0%	100.0%

- 3. 1.2.の質問で「あまり思わなかった」「思わなかった」という場合は、その理由をご記入ください。
- 問題が難しすぎる(大学)
- 4. 今回の協議会について印象に残った点・コメントをお書き下さい。
- ・ 学ぶ意欲の低下という共通した課題についてもっと考え、対応していかなければならない(高校)
- ・ 大学の先生方から求められている高校生像、英語指導の在り方、学習のさせ方について具体的に考え をお伺いする機会になった。
- ・ 出前講義のテーマ設定について、大学の先生方が「テーマを指定してほしい」と考えていらっしゃる 点が印象に残りました。今後改善できる余地が大いにあると思います。(高校)
- ・ 大学の先生方もテーマ設定等悩んでいらっしゃることがわかった(高校)
- 大学の学生が自主性に欠け、受け身である→高校教育の工夫が必要
- 高校で新書を読まない→読書の推進
- ・ 英語・・・コミュニケーション能力の育成が必要
- ・ 出前講座・・・・学部ごとの依頼ではなく、テーマによってできないか(高校)
- ・ 高校・大学ともにお互いの実態を知る努力に欠けているように思う。今回のような意見交換が深化していくことを期待したい。(高校)
- ・ 各教科別にもっと深い議論をできる機会があればと思います。(大学)
- ・ 高校と大学の間での事前の打ち合わせの必要性、学生の自主的学習態度の必要性
- ・ 高校・大学間での教科内容について情報交換が必要だと思います(各教科毎に密に検討)(大学)
- ・ 文系・理系とも同じ様な意見が出た事は皆同じ事を思っているということで、今後の高大の対応に期 待できるのではないか (大学)

- ・ 高校の現状が (特に総合的な学習) 分かったような気がします (大学)
- ・ 参加者全員とても紳士的でよかったです。(大学)
- 5. 今後、高大連携や初年次教育に関する高校・大学間の検討会について提案・改善案などがございましたら お書き下さい。
- ・ お互いの現場をもっと見ることで現状認識をすることも必要。「学ぶ意欲」については入学試験の問題なども含めて考える必要もあるのではないか(高校)
- ・ 多数の意見を交換したので、FD としての改善に役立てられると思う。(大学)
- ・ 科目ごとでももう少し高校・大学で先生を集めて会を持ってもよいのではないか (大学)
- ・ 大変有意義でした。いろいろな情報を得ることができました。3 時間位で(休憩も入れて)行ってみるのもよいと思います。(大学)
- ・ 直接講座を担当された先生方からのご意見を伺ったり出前講座に立ち会った高校教員が出席するような会であればより具体的な改善策の検討ができると思う。
- ・ 現場の状況を実際に見る機会を設けてはどうか(高校)
- ・ 多くの情報交換が必要ではないでしょうか

第36回長崎大学 FD

「カリキュラムに沿った授業改善法」

1.目的 本学ではPDCAサイクルに沿って授業改善を図っている。本 FD ではC段階(評価) に当たる授業実施報告書,授業評価の集計結果,及び授業評価懇談会での意見などを 基に,授業の実施状況についての理解を深め,カリキュラムに沿った授業改善法を考える。

2. 対象者 教育改善委員会委員

3. 日時 平成 20 年 3 月 18 日 (火) 10:15~12:00

4. 場所 事務局 3階 第1会議室

5. 参加者数 6名

6. プログラム ①授業実施報告書の集計結果を用いた意見交換

②授業評価の集計結果,及び授業評価懇談会の結果に関する意見交換

③カリキュラムに沿った授業改善法に関する意見交換

【主 催】長崎大学教育改善委員会

【企画・実施】大学教育機能開発センター

<アンケート結果> (提出者2名)

【今回の FD について印象に残った点】

- ・学生との懇談会における意見はこれまで知ることができなかった事項が多く、大変参考になった。このような会合は継続して行う必要があると思われる。
- ・クロス集計など授業評価結果の活用方法について、より詳しく分析したものを出していただければより参考になると思う。
- ・カリキュラムの視点から授業についての理解ができた

第37回長崎大学 FD

「研究指導のデザイン」

- 1. 目的 大学院の研究指導の改善に資するために、各研究科における研究指導計画の紹介と改善に向けての検討を行う。
- 2. 対象者 教育改善委員会委員
- 3. 日時・場所 1回目:平成20年3月18日(火)5校時(16:10~18:10)

総合教育研究棟2階 多目的ホール

2回目: 平成20年3月19日(水)5校時(16:10~18:10)

総合教育研究棟2階 大講義室

- 4. 参加者数 12名
- 5. プログラム
- (1) 各研究科の研究指導計画書の紹介(約30分)
 - ・研究指導の方法及び内容
 - ・一年間の研究指導計画
 - 学位論文評価基準
 - 研究指導計画書
 - (2) 研究指導計画書に関する話題提供(約30分)

下記の内容について話題提供を行う。

- ・研究達成のベンチマーク
- 学位授与基準
- ・学生の書いた研究計画とその指導計画
- コースワークとの関係
- ・TAの位置づけ
- ・研究によって得られる能力
- (3) 研究指導計画書のモデル案の作成・検討(約60分)

【主 催】長崎大学教育改善委員会

【企画・実施】大学教育機能開発センター

第38回長崎大学 FD

「平成19年度全学教育FDワークショップ」

【目的】 本 FD ワークショップは、全学教育の各科目別委員会ごとに教育改善を行うことを目的として開催されるものである。授業評価結果に基づいた授業改善など、各科目区分ごとでの共通の教育改善の課題を見出し、担当教員間での共通認識を深化させ、協同的に教育改善に取り組むことを目指すものである。本年度は(1)情報処理科目、(2)外国語科目、(3)教養セミナーの各委員会において開催された。以下、各委員会ごとに報告する。

(1)情報処理科目

- 1. テーマ 「情報処理科目の現状と今後のあり方について」
- 2.目的 情報処理科目委員会では、2006 年問題に対応して科目の追加等の改革を行ってきた。 また、その後の経緯を、毎年、全入学生に対するアンケート調査とその分析を行って きた。その結果を示すと共に、情報処理科目の現状と今後のあり方について議論する。
- 3. 対象者 ・全学教育「情報処理科目」担当教員(H20予定者含む)
 - 情報処理科目委員会委員
 - ・「情報処理科目」に関心のある教員
- 4. 日時 平成20年3月11日 (火) 16:10~17:40
- 5. 場所 全学教育講義棟103番教室
- 6. 参加者数 18名
- 7. プログラム
 - 1)「2006年問題に関するアンケート結果について」
 - :情報処理科目委員会委員 三根眞理子(医歯薬学総合研究科)
 - 2)「新指導要綱に対応した情報処理入門の内容の検討開始について」
 - :情報処理科目委員会委員長 黒川不二雄(工学部)
 - 3)「「情報処理入門」の現状について」
 - :情報処理科目委員会委員 古賀掲維(大学教育機能開発センター)
 - 4)「「コンピュータ入門」の現状について」
 - :情報処理科目委員会委員 野崎剛一(情報メディア基盤センター)
 - 5)授業評価について
 - :情報処理科目委員会委員 古賀掲維(大学教育機能開発センター)

(2) 外国語科目

- デーマ 「英語習熟度クラスの今後の方向性について ―平成19年度水産学部総合英語Ⅱ・Ⅲで実施のデータを基に一」
- 2.目的 2002年、文部科学省は「英語が使える日本人の育成のための戦略構想」を発表し、グ

ローバル社会の中で使える英語力のための教育への要求は、以前になく大きくなっている。そしてこのような要求が大きくなればなるほど、大学における英語教育の非効率性が問題視され、社会から厳しい目が向けられているのも事実である。使える英語とは何でありその目安はどこにあるのか、使える英語力を育てるために大学の英語教育はどうあるべきか。今回の FD では、平成 19 年度から実施している水産学部総合英語 II・IIIにおける習熟度別クラスの質的および量的データを基に今後の習熟度クラスの方向性を検討してみたい。

- 3. 対象者
- 外国語科目委員会委員
- ・全学教育「英語」担当教員(H20予定者含む)
- ・「外国語科目」に関心のある教員
- 4. 日時 平成20年3月18日 (火) 10:00~12:00
- 5. 場所 全学教育講義棟205番教室
- 6. 参加者数 9名
- 7. プログラム (1)平成19年度水産学部総合英語Ⅱ、総合英語Ⅲにおける習熟度別クラス実施に関する報告─量的・質的データからの分析(小笠原)
 - (2)グループディスカッション

主催 長崎大学教育改善委員会

企画・実施 全学教育実施委員会、大学教育機能開発センター

(3) 教養セミナー

- 1. テーマ 教養セミナーの更なる改善をめざして―「学生による授業評価」から見えるもの―
- 2. 趣 旨 教養セミナー委員会では、教養セミナーの科目目標、到達目標に対応した「学生による授業評価」や、それに対応した設問による「教員アンケート」を行い、その結果を教養セミナーガイドライン等への掲載や、科目別 FD の開催を通じて授業改善を図ってきた。平成 19 年度「学生による授業評価」結果をみると、知的活動への動機づけをはじめ教養セミナーの教育目標には概ね高い肯定的評価が得られている。また、今後の大学での学習に有益な授業であるとの総括的評価についても 70%以上が肯定的評価を示していることから授業の有益性が支持されているものと思われるが、逆に言うと、中立的評価を含めた残り 30%弱が十分評価していないことになる。この一因に、「今後の大学での学習」に対する認識の違いがあると考えている。そこで本 FD ワークショップでは、授業評価結果に基づいた授業改善をねらいとして、特にこの総括的項目をとりあげ、科目目標との整合性を含め、本項目の趣旨の再認識と共有を図る。学生へ趣旨を周知し、齟齬のない授業評価を目指す。なお、本ワークショップでは最初に、教養セミナー担当者(特に初任担当者)を対象として、教養セミナーに関する基本事項の説明と、実施の状況や実施面での課題を報告する予定である。
- 3. 対象者・平成20年度教養セミナー担当予定(初任担当含む)教員
 - ・教養セミナー委員会委員

- ・教養セミナーに関心のある教員
- 4. 日時 平成20年3月19日(水)14:00~16:20
- 5. 場所 全学教育講義棟103番教室
- 6. 参加者数 12名
- 7. プログラム 1) 話題提供「長崎大学教養セミナーの現状と課題」 教養セミナー委員会委員長 高橋正克
 - 2) 話題提供 「「学生による授業評価」から見えるもの ー総括的評価項目の否定的評価を考えるー」 教養セミナー委員会委員長 高橋正克
 - 3) 質疑応答ならびにディスカッション

3. 総括:平成20年度に向けての課題

3-1. 平成 18 年度からの進展

平成 18 年度と比べた際の平成 19 年度の成果としては、大きく言えば①教育マネジメントサイクルの再構築、② FDの対応範囲の拡張の二点が挙げられる。

①教育マネジメントサイクル ver2.0 再構築の意義

まず、①教育マネジメントサイクルの再構築については、今後の長崎大学FDの展開に大きな影響を及ぼす改革だといえる。一般的に、FDの定義としては、授業レベルでの改善のみがクローズアップされがちである。例えば中央教育審議会答申では「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。」(「我が国の高等教育の将来像」平成17年1月)とあるように、その焦点は教育活動の最小単位である授業に当てられているが、この定義では授業科目が集積した形として立ち現れるカリキュラムレベルでの改善が行えない。むしろ各授業科目がカリキュラムに示される教育目標を構成する要素として存在することを考えると、授業科目レベルのみに焦点を当てて教育改善を行おうとするのは本末転倒的な側面も見受けられる。

我々が今回、教育マネジメントサイクル ver2.0 を構築したのは、教育活動の最小単位である授業レベルでばかり教育改善が行われかねない問題を避けるためである。本年度は、まだ概念を再構築したばかりであることもあり、授業・カリキュラム・大学全体の各レベルに応じたFDや、PDCA全てに対応したFDが提供できなかったが、今後、学内において改善が必要な側面から随時、FDにおいて扱う範囲を増やしていきたいと考える。

②FDの対応範囲の拡張について

また、②FDの対応範囲の拡張は、教育マネジメントサイクルの再構築に合わせて起こった動きである。教育マネジメントサイクル ver2.0 を構築することによって、FD において扱うべき教育活動の領域や PDCA レベルでのプロセスを明確化したことにより、これまでには扱ってこなかった対象範囲の FD が企画・実施できた。平成 18 年度のFDが、新任教員FD、教材開発型FD(FDサマーワークショップ)、個別相談型FD(授業コンサルティング)、科目開発型FD(全学教育FDワークショップ)、それぞれのカテゴリー各一回ずつ計 4 回の実施であったことを考えると、平成 19 年度は、FDのカバーする範囲が大きく広がった。

第一に、本年度は授業改善のための基本的なスキルについて扱うFDを盛り込んだ。第32回長大FDでは「新任教員向け授業実践オリエンテーション」として、授業設計・実施の基本的なスキルについての内容を採り上げた。

第二に、旧来の教育マネジメントサイクルがあまり機能しなかったカリキュラムレベルの改善を目的としたFDを追加した。第 35 回では、「高大連携による授業改善」として、高校までのカリキュラムと大学初年次教育(全学教育)の実際的なアーティキュレーション(接合)についての現状把握と対応策を考えるFDを行った。また、これまでのFDの成果から、教育改善が各科目レベルの個別的な改善か、もしくは全学教育の科目委員会レベルでの科目区分レベルでの改善にとどまるという問題から、第 36 回では「カリキュラムに沿った授業改善法」として、授業実施報告書や学生による授業評価、授業評価に関する学生懇談会などのデータを基にしてカリキュラムを意識しながら授業科目の改善を行うための実際的な方法について考える目的のFDを実施した。

第三に、学士課程のみならず、大学院課程レベルでの教育改善をテーマとしたFDを企画した。第37回では、

「研究指導のデザイン」として、大学院教育での研究指導力を高める目的のFDを実施した。

これらに挙げられるように、本年度の長崎大学 FD は、教育マネジメントサイクルを ver2.0 に再構築したことにより、FDの扱うべき教育活動の対象範囲を実際的なレベルで拡張することができた。今後、このサイクルの枠組みに沿いながら、教育改善を進展させていく所存である。

3-2. 平成 20 年度に向けての課題

平成 18 年度までの FD を見直し、教育マネジメントサイクルを ver2.0 に再構築する過程で見えてきた課題は、各部局の教員が教育改善のプロセスについて十全に理解するための機会が少ないために、組織全体での教育改善が進んでいかないことである。そこで必要になってくるのは、教員が自ら教育改善を行えるための手法を、全学的な FD によって広めていくことと考える。昨年度までの FD では、教員が自らの関心に従って自由に参加できる FD は、FD サマーワークショップのみであったが、この FD も主として教材開発を目的として行われるものであるため、今後は教員レベルを対象とした授業改善のためのプログラムを増やしていくことを課題の一つとしたい。

また、授業改善のみならず、カリキュラムレベルでの改善の促進及びカリキュラム間の接合が求められる大学全体レベルでの教育改善を扱う FD プログラムも今後増やしていく必要がある。学内でのニーズを調査したうえで、必要性の高いものから順次企画していくこととしたい。

【参考:平成 18 年度実施 長崎大学 FD 一覧】

第 24 回「長崎大学新任教員 FD オリエンテーション

1) 新任教員のための就業規則等制度説明

2) 長崎大学歴史散歩 -150年をふりかえる-」

第25回「課題探求・解決型授業の支援3」

第26回「教員との個別相談(コンサルティング)」

第28回「全学教育 FD ワークショップ」

外国語科目 「授業改善に向けの検討と今後の展望」

教養セミナー 「成果評価基準について」

「教育マネジメントサイクルの構築と授業改善」

「教養セミナー担当者への提言:学生に何を学んでほしいか」

教養特別講義 「教養特別講義-教育マネジメントサイクルの構築と授業改善」

第3編 平成20年度

<目 次>

1.	長峒	6大学 FD の枠組〜教育マネジメントサイクル ver2.0 について 1-1.長崎大学 FD と教育マネジメントサイクル ver2.0・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2		
	- //	成 20 年度実施の長崎大学 FD(大学教育機能開発センター実施のもの)
第:	39 回	「ウェルカムFD(新任教員 FD)」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第	40 回	「教育改善委員会 FD ワークショップ―長崎大学の教育改善を考える―」・・・・・11
第	41 回	「学習意欲を育てる授業実践とは一授業のつくり方から成績評価まで一」・・・・13
第	43 回	「全学・専門教育連携FD―長崎大学における教養教育を考える―」・・・・・・15
第一	44 回	「授業評価FD―授業評価結果の効果的公開(フィードバック)・活用方法を探る」
		18
第一	45 回	「長崎大学 FD サマーワークショップ」・・・・・・・21
第	46 回	「高大連携 FD―高大連携による授業改善―」・・・・・・・・・・・25
第一	48 回	「シラバスを書こう!~学生の学習支援のツールとして~」・・・・・・・・26
第	49 回	「平成 20 年度全学教育 F D ワークショップ」・・・・・・・・29
(注	E:第4	42回、第 47 回長崎大学 FD は他部局主催であるため本報告書には記載しない)
3	総長	ま・木年度の成里と巫成 91 年度に向けての趣顯

1. 長崎大学 FD の枠組~教育マネジメントサイクル ver 2.0 について

1-1. 長崎大学 FD と教育マネジメントサイクル ver2.0

長崎大学のFDは、教育改善委員会及び大学教育機能開発センターが主体となって行う、全学的なレベルでの「長崎大学FD」と、各学部学科・研究科ごとに行われる「部局FD」に分けられる。そのうち、長崎大学FDについては、FDの実施枠組についての再検討を行い、平成19年度からは教育マネジメントサイクルに基づくFDを展開している。教育マネジメントサイクルとは、長崎大学が平成15年度に「特色ある大学教育支援プログラム(特色 GP)」として採択された「特色ある初年次教育の実践と改善ー教育マネジメントサイクルの構築ー」において立てられた、授業評価、FDをサイクルの重要な構成要素として機能させ、授業改善を図るための理念枠組である。

大学教育機能開発センターでは、この教育マネジメントサイクルをより全学的に使いやすいものにするべく、平成 19 年度に「教育マネジメントサイクル ver2.0」として、教育改善の内容を(1)PDCA サイクル

(Plan-Do-Check-Act)の4つのプロセスと、(2)取り扱う教育内容のレベルから新しく再構築した。

(1)PDCA サイクルとしては、計画 (Plan) 一実施 (Do) 一点検・評価 (Check) 一改善 (Act) の各段階で、実際にどのような活動を行えばいいのか概要を明示し、また、(2) 教育内容のレベルでは、教育活動で改善されるベきレベルを①授業 (責任主体: 各教員)、②カリキュラム (責任主体: 学部学科・研究科)、③学士課程・大学院課程プログラム (責任主体: 大学全体) の三層に分類した。この二軸から、教員や学部・研究科などの責任主体が各レベルの教育活動において PDCA ごとでどのような教育改善活動を行うべきか明示したものが「教育マネジメントサイクル ver2.0」 (図 1) である。

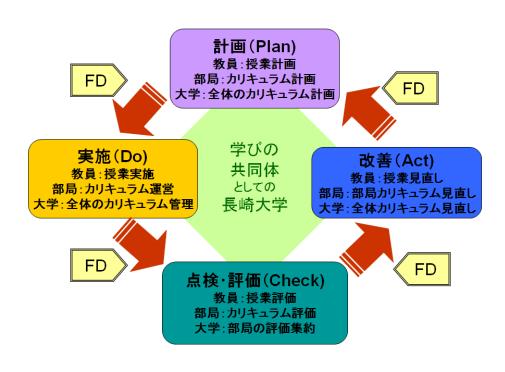


図 1 教育マネジメントサイクル ver2.0

また、表1には教育内容の責任主体(役職)ごとに、PDCAサイクルの各プロセスでの教育改善活動例を示した。 これによって、教育活動の全体性が示せるのと同時に、各レベルでの教育改善として具体的に何を実践すれば よいかを例示した。長崎大学FDでは、これらの枠組に即してFD活動を順次展開していく。

表1 各レベル毎の教育改善活動例

役職	1) Plan 計画	2)Do 教育活動の実施	3)Check 評価	4) Act 改善方針の決定
教員	授業計画の策定、 到達目標の設定、 シラバスの作成	授業の実施 学習支援	学生による授業評価、 ピアレビュー(同僚評 価) 授業個別相談(大教 センター提供)	授業内容・方法の 見直し、改善
部局	各科目の到達目標 の集約、 カリキュラム計画の 策定・提示	カリキュラム運営 学習支援 部局単位での教育 実践	学生による授業評価、 卒業生・企業・第三 者 によるカリキュラム評 価	カリキュラムの見 直し、 改善案の考案・提 示
大学	全学教育・専門教育 全体としてのカリキュ ラム計画	大学全体のカリ キュラム管理 学生に対する学習 支援・環境整備など	大学についての学生 評価 各部局ごとでの授業 評価及び カリキュラム評価の 情報集約	大学教育全体の 見直し、 改善案の考案・提 示

1-2. 教育マネジメントサイクル ver2.0 構築の意義

我々が教育マネジメントサイクル ver2.0 を構築したのは、FD が授業改善のみを指しがちな狭義の意味にとどまり、教育活動の最小単位である授業レベルでばかり教育改善が行われかねない問題を避けるためである。

一般的に、FDの定義としては、授業レベルでの改善のみに焦点が当てられがちである。例えば中央教育審議会答申では「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。」(「我が国の高等教育の将来像」平成17年1月)とあるように、この定義においてFDが指す内容は教育活動の最小単位である授業面での改善である。しかし、この定義では授業科目が集積した形として立ち現れるカリキュラムレベルでの改善は行えない。むしろ各授業科目がカリキュラムに示される教育目標を構成する要素として存在することを考えると、授業科目レベルのみに焦点を当てて教育改善を行おうとするのはカリキュラムレベルでの改善が目指されないという点で大きく問題を抱えることになる。

我々は、この問題を避けるため、教育マネジメントサイクル ver2.0 を FD の基本枠組に据えることにより、教育活動全体を捉えた FD を実施していく。教育マネジメントサイクル ver2.0 は、教育活動を全体的に捉える視野から FD を概念的に考えていくための枠組である。教育内容を、授業レベル・カリキュラムレベル・大学全体(課程・組織)レベルに分けると同時に、各レベルでの PDCA のプロセスを明示することにより、教育改善に必要な課題の全体を網羅することを目指した。現状では、スタッフの少なさなどリソース上の問題から、授業・カリキュラム・大学全体の各レベル、かつPDCA各プロセスの全てに対応したFDはまだ提供できていないのが、今後、学内において改善が必要な側面から随時、FDで扱う内容の範囲を増やしていく予定である。

2. 平成 20 年度実施の長崎大学 FD

		1	1
	題目	主な対象レベル	段階
第 39 回	ウェルカムFD(新任教員 FD)	授業の改善	主としてP
第 40 回	教育改善委員会 FD ワークショップ—長崎大学の教育 改善を考える—	組織の改善	C、A段階
第 41 回	学習意欲を育てる授業実践とは―授業のつくり方から 成績評価まで―	授業の改善	C、A段階
第 43 回	全学-専門教育連携FD—長崎大学における教養教育 を考える—	カリキュラムの 改善	C、A段階
第 44 回	授業評価FD—授業評価結果の効果的公開(フィード バック)・活用方法を探る	授業の改善	C、A段階
第 45 回	長崎大学 FD サマーワークショップ	授業の改善	PDCA
第 46 回	高大連携 FD―高大連携による授業改善―	カリキュラムの 改善	P、D段階
第 48 回	シラバスを書こう!~学生の学習支援のツールとして ~	授業の改善	P、D段階
第 49 回	平成 20 年度全学教育FDワークショップ	カリキュラムの 改善	C、A段階

第39回長崎大学 FD

「ウェルカムFD(新任教員 FD)」

- 1.目的 (1)長崎大学が目指す教育・研究・社会貢献に関する基本的知識を得ること
 - (2)長崎大学の文化・歴史を知ることにより、大学への理解を深めてもらうこと
- 2. 対象者 平成19年4月4日から平成20年4月1日までに長崎大学に新たに赴任した教職員
- 3. 日時 平成 20 年 4 月 2 日 (水) 13:00~17:00 第一日「長崎大学が目指すもの」 4 月 3 日 (木) 12:00~17:00 第二日「長崎大学歴史散歩」
- 4. 場所 文教キャンパス, 片淵キャンパス, 坂本キャンパス
- 5. 参加者数 教員 44名(第1日、2日計)、事務職員 27名(第2日のみ)
- 6. プログラム

第一日:「長崎大学が目指すもの」

【日時】 平成 20 年 4 月 2 日 (水) 13:00~17:10

【場所】総合教育研究棟2F 多目的ホール

【内容】 13:00~13:10 挨拶 福永博俊 理事(教育・情報担当) 13:10~13:30 特別講演:「長崎大学の今後の展望」齋藤 寛 学長

第一部「長崎大学が目指すもの」

13:30~14:10 「長崎大学の教育について」 福永博俊 理事(教育・情報担当)

14:10~14:50 「長崎大学の研究・国際戦略について」 松岡敷充 理事(研究・国際担当)

14:50~15:10 「知的財産関連」 安田英且 教授(知的財産本部)

15:10~15:30 休憩

第二部「長崎大学の学習・教育支援」

15:30~16:20 「長崎大学の学生の特徴・教育改善について」 岡田佳子 准教授・長澤多代 助教 (大学教育機能開発センター)

16:20~17:00 「学生支援・ハラスメント関連」 富永ちはる カウンセラー (学生支援課)

17:00~17:10 挨拶

第二日:「長崎大学歴史散歩」

【日時】 平成 20 年 4 月 3 日 (木) 12:00~17:00

【場所】総合教育研究棟(文教キャンパス)、経済学部(片淵キャンパス)、 医学部・歯学部(坂本キャンパス)

【内容】 長崎大学歴史散歩-150 年をふりかえる

11:45~12:00 受付(総合教育研究棟2階多目的ホール)

12:00~12:10 挨拶 福永博俊 理事

12:10~12:25 特別講演①:長崎大学150年の意味からみた展望

齋藤 寛 学長

12:25~13:15 文教キャンパス歴史散歩

【文教キャンパス:原爆の惨禍の跡と新制総合大学 60 年の象徴】

【スタート】総合教育研究棟:21世紀・長崎大学の教育研究拠点(総合大学院)

- (1) 環境科学部正門前(旧教養部建物):1960年代~70年代/長崎大学と学生運動・教養教育
- (2) お薬の歴史資料館,生薬標本室(薬学部):薬学の歴史を知る貴重な資料

中島憲一郎 教授(医歯薬学総合研究科)

河野 功 教授(医歯薬学総合研究科)

- (3) 古写真資料室(附属図書館)
- (4) 正門前パネル (三菱兵器工場跡): 文教キャンパス誕生の意味
- (5) 長崎師範原爆慰霊碑:(学徒動員の中での犠牲)
- (6) 中部講堂:水産県・長崎の拠点大学としての期待を込めた寄付建物

13:20~13:50 バス乗車 (中部講堂前)・バス移動

バスルート:

国道 202 号線を南下

長崎大学→平和公園前→長崎駅前→国道 499 号線へ入り五島町電停付近から左折

新興善小学校跡(被爆時の長崎医科大学附属病院仮施設)→長崎グランドホテル:長崎県庁方面 (医学伝習所発祥地)→築町→賑橋→公会堂前→諏訪神社前→片淵へ

13:50~14:10 片淵キャンパス歴史散歩

【片淵キャンパス:キャンパスが語る一世紀の伝統】

- (1) 入り口の架橋:100年間学生が通い続けた石畳
- (2) 長崎高商門標:「第三高商」の誇り高い伝統の原点
- (3) 瓊林会館・赤レンガ倉庫:原爆被災を免れた貴重な長崎大学の歴史的建物。同窓会の強い結束

14:10~14:30 特別講演②:高商 100年と武藤文庫(経済学部新館 101 教室)

柴多一雄 教授(経済学部)

14:30~14:55 武藤文庫の案内

14:55~15:05 休憩(経済学部中庭周辺)

15:10~15:35 バス移動(坂本へ)

15:35~16:35 坂本キャンパス歴史散歩

【坂本キャンパス:生命科学の拠点であり続ける理由~150年の経験】

- (1) 旧制長崎医科大学正門 門柱:8月9日の「証人」
- (2) 西洋医学史展示 (ポンペ会館2階展示室・附属図書館医学分館2階展示室)
- (3) 熱帯医学研究所

平山謙二 教授(熱帯医学研究所)

(4) 原研2号館1階展示室(原爆後障害医療研究施設)

三根 眞理子 准教授 (医歯薬学総合研究科)

16:35~17:00 学長総括(良順会館)・写真撮影

主催:長崎大学教育改善委員会

企画・実施:大学教育機能開発センター 協力:事務局,附属図書館,経済学部,医

7. 分析

(1)ウェルカム FD 初日「長崎大学が目指すもの」について

FD 初日の全体的な満足度としては、「満足した」(44.1%)と「まあまあ満足」(47.1%)を合わせると約9割が大よそ満足していることがわかる。(表4参照)

また、長崎大学への理解度(表 5)、初日 FD への有用度(表 6)についても約9割が肯定的な評価をしている。 参加者の6割強が「長大について理解が深まった」「FD は有用だった」という最も肯定的な項目に回答していることは今回のFD 計画が参加者のニーズに対して適切であったことを示している。

FD についての印象に関する自由記述をみると、全体構成のバランスについての評価が高く、長崎大学全体の 方向性やシステムについて短時間で理解が深まったという指摘が多い。また、今年は学生生活調査や授業評価 の結果をもとにした長大の学生の特徴についてのプログラムを盛り込んだところ、「学生の実態がわかってよかっ た」などの肯定的評価が多数見られた。今後も、長崎大学全体の教育活動に資するデータを分析・提供すること が FD として必要であろう。

一方で、FD 実施についての連絡が遅れていたことに対する指摘がみられた。新任教員にどのように連絡をすれば早くFD の実施計画が伝わるのか検討の必要がある。

表1:初日のウェルカム FD「長崎大学が

目指すもの」に満足しましたか?

	人数	%
満足した	15	44.1%

まあまあ満足	16	47.1%	
あまり満足しな	2	2 5.9	5.0%
かった			0.9%
満足しなかった	0	0.0%	
無回答	1	2.9%	
計	34	100.0%	

表2: 長崎大学について理解を深めることができましたか

	人数	%
深まった	21	61.8%
まあまあ深まった	12	35.3%
あまり深まらなかっ た	1	2.9%
深まらなかった	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	34	100.0%

表3:ウェルカム FD「長崎大学が目指すもの」は有用でしたか

	人数	%
有用だった	22	64.7%
まあまあ	11	32.4%
あまり	1	2.9%
じゃなかった	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	34	100.0%

<自由記述:初日 FD の印象的な点>

- ・学長から長大の目的や思いが聞けてよかった。もう少し時間があっても良いのでは。
- ・各報告とも、非常に良い勉強になりましたが , とくに学長先生の特別講演が印象的でした。
- ・長崎大学全体の方向性、システムが理解できた。また本学学生の実態が知れてよかった。
- ・長大の全体像が理解された。
- ・全体のバランスが取れていて良かったと思います。
- ・短い時間で長崎大学に関する知識を深めることができた。
- ・予想以上に充実していた。長大のめざすところがそれなりに理解できた。
- ・長崎大学の理念やその背景、また長崎大学の教育と研究に係る現状を広く深く理解でき、印象に残りました。

- ・長崎大学の歴史. 教育・研究理念を集中して聞くことができて良かった。また学生の特徴をきくことができ、授業方法内容の構築上参考になった。
- ・長崎大学の全体像(ものの考え方)が見えてきた。自分が受け持つ部署でのミッションは、全体像が見えないと 一人よがりになりがちであると感 g なえていたので、ありがたかった。長崎大学の教員の一員としてのモチベー ションは確かに上がったと感じている。後半の学生の実態は大変参考になった。教育に携わる者としては、当然 把握しておかなければならないものであり、それをもとに、授業改善をしていかなければならないが、実態として なされていないのは憂慮すべきことである。一人でも多くの学生を支援できるようにしていきたい。
- 第二部が全体的に丁寧で分かりやすかったと感じました。
- ・第二部は知りたい情報がコンパクトにまとまっていた、今後の FD のことも分かってよかった。
- ・学生の特徴など有用な、非常に参考になる情報が得られた。
- 新鮮。。。やはり聞いて良かったと思いました。
- ・グループディスカッションやワーク等あっても良かったかなと思いました。
- 連絡が遅すぎる。
- ・長崎県の高校との連携や実態についてほとんど触れられていなかったことが印象に残った

3. ウェルカム FD 二日目~「長崎大学歴史散歩」について

ウェルカムFD二日目「長崎大学歴史散歩」への参加者の意見として特筆すべきなのが、本企画に「満足した」という最高の肯定評価を行ったものが 7 割強もいることである(表 7)。満足度に関して否定的な回答をした参加者は一人もおらず、本企画が参加者にとって非常に高い満足度を与えたことがわかる。

また、長大に対する理解度の深まり、興味関心の高まり、本 FD の有用度に対する評価(表 8,9,10)も最高の肯定項目に対する回答が 7 割以上と非常に高い。

自由記述を検討して特徴的なのは、「学長自身が説明をして下さること」についての記述が多いことである。(35 件中6件が学長について言及)。大学の代表である学長が参加者に対し直々に長崎大学の歴史について語ることは、参加者にとっても非常に印象が強いようである。

また、歴史的遺構を巡ることにより長崎大学そのものの歴史や特徴を知ることができることについての評価も非常に高い。これらのことから、本企画は参加教職員にとって長崎大学の一員としてのアイデンティティを高めるうえで大きな役割を果たしていることがわかる。但し、各施設を巡る時間の短さや、開始時間が 12:00 からと昼食時間と重なっていることについては不満の声もあり、今後、時間の延長なども含めて検討していく必要があるだろう。

表4:「歴史散歩」に満足したか)
-----------------	---

	人数	%
満足した	32	72.7%
まあまあ満足した	12	27.3%
あまり満足しなかった	0	0.0%
満足しなかった	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	44	100.0%

表5: 長大について理解が深まったか

	人数	%
理解が深まった	31	70.5%
まあまあ理解が深まった	13	29.5%
あまり理解が深まらなかった	0	0.0%
理解が深まらなかった	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	44	100.0%

表6: 長大について興味関心を高めること ができたか

	人数	%
高まった	36	81.8%
まあまあ高まった	8	18.2%
あまり高まらなかった	0	0.0%
高まらなかった	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	44	100.0%

表7:歴史散歩は長大での生活に役立つと 思うか

	人数	%
思った	31	70.5%
まあまあ思った	10	22.7%
あまり思わなかった	3	6.8%
思わなかった	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	44	100.0%

<自由記述:歴史散歩で印象に残った点> 35 件中 6 件(17.1%)が学長の説明について言及。

- ・学長自らがご案内くださったこと
- ・桜が美しかった。学長の案内がよかった
- ・個々の内容に加えて、学長先生の長崎大学を良くしようとする姿勢及び熱意に感銘を受けました。
- ・長大に来たばかりで、大学内のことはほとんど知らなかったんですが、今回の歴史散歩で色々知ることができて良かったです。学長が目の前で説明してくださったのも、すごく印象に残りました。
- ・学長の説明が大変わかりやすかったです
- ・150年の歴史の重みを感じ、また仕事を頑張ろうという気になりました。他のキャンパスも訪問できよ

かったです。学長がご説明を詳しくされたこと。

- ・大学の歴史を知れただけでなく、長崎という街とその歴史について知ることができてよかったです。
- ・原爆被害、被災をはじめ貴重な遺構を拝見でき、また同時に大学の歩みに関して知識を少しは深める ことができた。旧長崎医大門柱は極めて印象的だった
- ・自らが原爆から復興するという観点で原爆医療の研究をしているとは知らなかったのでその話は印象 的だった。文教キャンパスの話もそう。
- ・長崎大学設立の歴史的経緯が詳細にわかったこと
- 各図書館にあったお宝
- ・薬の資料館(生薬も含め)、中部講堂の説明、武藤文庫、医学部の門柱、西洋医学史展示、熱研ミュージアム、原研展示室・・・全ての見学箇所です。学長の説明がとてもよかった。
- ・近代医学の発祥の地、原爆投下などの歴史の重みを感じた。
- ・やはり天気に大きく左右されますね。特に天気のよかった今年に参加できて Lucky でした
- ・長崎大学の歴史をうまく要約しており、全体的に分かりやすかった。良い企画だと思います。
- ・歴史の重み
- ・思っていたより多くの資料がありびっくりしました。
- ・長崎大学に貴重な資料がたくさんあることを知れてよかった
- ・原爆の被害を改めて見る事は重要だと感じた
- ・多くの人々の犠牲の上に現在の大学があるということ
- ・歴史的に貴重な資料が数多く所属されていた点
- 伝統・歴史深いことを改めて感じました。
- ・歴史的に価値あるものが沢山学内に眠っているので、もう少々広く一般に公開しても良いのではない かと思った
- ・貴重な資料を拝見できてよい体験ができました
- ・熱研や医学部の資料館での写真が印象的でした。歴史を知ることができて長崎大学の印象が変わった
- ・各学部の図書館に各学部の歴史が展示され、長崎大学の歴史と教育方針が充分に理解できた
- ・片淵キャンパス、坂本キャンパス、文教キャンパスそれぞれ歴史の遺物と現在の活発な活動を見聞きすることができ、大変有効であった。熱研(原研?)の調教授の調査や永井博士のメモに感銘した。
- ・普段行くことのないキャンパスを各々よく知ることが出来た。
- ・各キャンパスの展示物が、それぞれとても興味深く、閲覧できてよかった
- ・普段行かないキャンパスを見学できて良かった。
- ・経済学部のキャンパス等それぞれ雰囲気が違うので印象に残りました
- ・片淵キャンパスの桜が印象的だった
- ・新しい建物や以前からあっても入ったことのない部屋などが見れて有意義でした
- ・リラックスできない。せわしない。原爆中心で全体的に暗い。かつて九州一の街であったというなら、 その頃を中心にして将来展望のひらけるものにした方がよい。
- ・市井との関わりがほとんど語られなかったところが印象に残った(→アカデミーは如何に世の役に立つか)

第 40 回長崎大学 FD

「教育改善委員会 FD ワークショップ―長崎大学の教育改善を考える―」

1.目的 長崎大学における教育活動を組織的に改善する立場として、教育改善委員会の役割は 非常に重要である。そのため、教育改善委員には長崎大学の教育活動を組織全体の観 点から捉えるための知見が求められる。そこで本年度は、大学全体としてのさらなる 教育改善を目指し、教育改善委員を対象とした FD を実施することとした。

本 FD は、教育改善委員としての業務遂行に必要となる長崎大学における教育改善の現状に関する基礎情報を共有し、今後の長崎大学の教育活動を組織的な観点からどのように改善していくべきかについて検討していくことを目的とする。

【本 FD の到達目標】

- ・長崎大学の教育改善活動の現状について理解すること
- ・今後の長崎大学の教育改善についての課題や対応策を発見・考案すること
- ・委員の参与意識を共有すること及び委員相互の横の連携関係を構築すること
- 2. 対象者 教育改善委員会委員、教務委員会委員、関心のある教員
- 3. 日時 平成 20 年 5 月 14 日 (水) 9:30-11:30
- 4. 場所 本部第1会議室
- 5. 参加者数 12名
- 6. プログラム
 - 1) 挨拶「教育改善委員の役割および今後の教育改善について」

羽坂 教育担当副学長

- (1) 教育改善委員会の役割、任務 : 本委員会は何故必要なのか。役割は何か。
- (2) 教育改善委員は何をなすべきか: 委員に期待されていることは何か

他の委員会委員との共同作業の仕方

教育改善委員の1年間の活動計画

2) 解説「長崎大学の教育改善の現況」

岡田佳子・長澤多代(大学教育機能開発センター)

- (1)長崎大学教育マネジメントサイクルについて
 - ・PDCA サイクルをどのように運営していくか
 - ・点検評価を踏まえた PDCA サイクルの実践について
 - ・各部局の PDCA サイクルと全学の PDCA サイクルとの連携について
- (2)「学生による授業評価」の実施方法
 - ・授業評価の意義と実施方法について
 - ・授業評価結果の活用法について
 - ・授業評価のフィードバック方法について
- (3)FD とは何か?
 - FD の定義・分類
 - ・長崎大学 FD と各部局の FD の関係性について
 - FD の効果をどのように測るか

- (4)分析報告:事前アンケート「長崎大学における FD の実施状況」
- (5)中期目標・計画について
- (6)昨年の委員会活動内容について
- 3) グループワーク「今後の教育改善の方向性について」

ファシリテーター: 岡田佳子、長澤多代(大学教育機能開発センター)

<内容>

- (1)アイスブレイキング
- (2)ニーズ把握:今何が必要か(FD・その他教育改善に関して)
- (3)戦略・方策の考案:何をすべきか。優先すべき事項は何か。どんな方策が必要か
- (4)全体シェア:検討事項のまとめ
- 4) 全体まとめ

【主催】 長崎大学教育改善委員会 【企画・実施】 大学教育機能開発センター

第 41 回長崎大学 FD

「学習意欲を育てる授業実践とは一授業のつくり方から成績評価まで一」

- 1. 目的 本 FD の目的は、学生の学習意欲を育てるための授業実践に必要な諸事項に ついての理解を深めることを目的とし、次の四点を到達目標とする。
 - (1)長崎大学の教育改善の仕組み(教育マネジメントサイクル)について理解を深める。
 - (2)授業づくりの基本的な方法について理解を深める。
 - (3)問題解決力の育成に重要な情報利用プロセスについて理解を深める。
 - (4)成績評価について理解を深める。
- 2. 対象者 2007年4月以降に着任した教員、その他参加を希望する教員
- 3. 日時 2008年5月20日 (火)
- 4. 場所 本部事務局第2会議室
- 5. 参加者数 12名
- 6. プログラム
 - 13:00-14:00 教育マネジメントサイクル (PDCA) と授業づくりの基本的な方法 (Plan+Do) 担当:岡田佳子 (大学教育機能開発センター)
 - 14:00-14:10 休憩
 - 14:10-14:50 学生の主体的な学習の支援:学生の問題解決力の育成と情報の利用 (Do)

担当:長澤多代(大学教育機能開発センター),郷原正好(附属図書館)

14:50-15:40 成績評価 (Check) について

担当:吉村 宰(アドミッションセンター)

【主催】 教育改善委員会

【企画・実施】 大学教育機能開発センター

【協力】 アドミッションセンター, 附属図書館

- 7. アンケート集計(回答:11名)
- ●今回のFD に参加して授業実践の改善に関する興味・関心が高まりましたか?

	人数	割合
高まった	7	63.6%
まあまあ高まった	3	27.3%
あまり高まらなかった	1	9.1%
高まらなかった	0	0.0%
計	11	100.0%

●全般的に見て、今回の FD は今後の授業実践に役立つと思いましたか?

	人数	割合
思った	5	50.0%
まあまあ思った	4	40.0%
あまり思わなかった	1	10.0%
思わなかった	0	0.0%
計	10	100.0%

●全般的に見て、今回のFDに満足しましたか?

	人数	割合
満足した	4	40.0%
まあまあ満足した	5	50.0%
あまり満足しなかった	1	10.0%
満足しなかった	0	0.0%
計	10	100.0%

第 43 回長崎大学 FD

全学-専門教育連携FD「長崎大学における教養教育を考える」

1. 目的 本FDの目的は、長崎大学の理念を達成するために、長崎大学の学士課程における教養 教育をどのようなものとしていけばよいか参加者相互で検討することにある。本学の 理念を教育面から実現するためには、学士課程全体を見通す視点から長崎大学の教育 を捉えていくことが求められる。特に、長崎大学の全学教育と専門教育の両者におい ては豊かな教養性や未知の領域に対する応用力をもった広い知性を育成することが求 められており、こうした全体的な視点から教養性の育成を考えるためには、長崎大学 における教養教育の在り方について大学全体で共通認識を培っていく必要がある。そ の中でも、すべての専門教育に関連をもつ全学教育において教養教育をどのように行 っていくか大学全体で考えていくことは長崎大学の教育にとって非常に重要な課題で ある。特に、高等教育のグローバル化, ユニバーサル化の動向とともに, 本学の次期 中期目標・中期計画を視野に入れ、学士課程全体を見る視点から長崎大学における教 養教育、そしてそれを実現する手段としての全学教育の役割について共通認識を再構 築していくことは喫緊の課題である。そこで大学教育機能開発センターでは、長崎大 学の教養教育及びそれを実現する手段としての全学教育の在り方について検討するこ とを目的としたFDを実施した。

【本 FD の到達目標】

- 長崎大学の学士課程における教養教育の在り方について考えること
- 長崎大学の教養教育を進めるうえで、全学教育においてどのような具体的な能力・資質養成が求められるのか、意見交換を行う。
- 長崎大学の教養教育を行ううえで全学教育と専門教育の連携性を高めるために必要な方策 を考えること
- 2. 対象者 全学教育科目を担当する教員、教務委員会委員、教育改善委員会委員、 学部の教務担当教員、関心のある教員
- 3. 日時 平成 20 年 6 月 13 日 (金) 14:30-16:30
- 4. 場所 全学教育研究棟 252 番教室
- 5. 参加者数 10名
- 6. プログラム
- 1) 挨拶 羽坂教育担当副学長
- 2) 解説「長崎大学における教養教育を考える~学士課程全体の視点から」

岡田佳子 (大学教育機能開発センター)

3) グループワーク「長崎大学における教養教育を考える」 ファシリテーター:岡田佳子、長澤多代(大学教育機能開発センター)

[グループワーク課題]

- ・長崎大学の学生に共通に求められる教養とは何か
- ・長崎大学全体の共通教育として、全学教育ではどのような能力・スキルを

養成するべきか、どのような方法でそれらを育成していくか

- ・長崎大学の学士課程において全学教育と専門教育をどのように連携させて 教養教育を構築するか
- 4) 全体まとめ

【主催】 長崎大学教育改善委員会 【企画・実施】 大学教育機能開発センター

7. アンケート結果

(1)現在の長崎大学の全学教育について①評価できると思われる点、②改善した方がよいと思われる点についてお書き下さい。

- ①評価できると思われる点
- ・長崎地域独自の教養科目があること
- ・全学出動体制による教育の実施
- ・長崎大学の特徴を出している、教養特別講義他で平和、長崎学などをとりあげている。
- ・本学の教育力で全学教育として最大限の授業を提供している点
- ・学際的な点
- ・医学部生としては問題なし
- ②改善した方がよいと思われる点
- ・全学教育の科目を卒業年次にわたって開講した方がよい。高学年で教育あるいは入学時から継続的に行った方がよいものがあると思われる。
- ・教養教育の位置づけを明確にする
- ・全学協力体制といいつつ本当にそうなっているかどうか疑問がある。科目の目標を全教員が共有できていない
- ・全学教育を 1,2年に集中させずに専門教育との時間的バランスをとらなければ連携も難しいのでは?
- ・全学教育としての教養教育の到達目標が明示されていなく、どの部分を任されているのか教官に判り にくい。
- ・能力の違いすぎる学生への同一講義(学生のバックグラウンドが違いすぎる)
- (2) 長崎大学の学生に共通に求められる教養とはどのようなものだとお考えになりますか。
- ・自らが考え、行動できる力
- 自己管理能力
- 人間力
- ・学生が主体的に学ぶための知識・態度を習得する。学生は受験のための学習はやってきているが自ら が何が学びたいのか、学ぶためにはどうしたらよいのかを考えようとしていないと思う。
- ・長崎大学人として社会から評価される基本的知識、マナー、モラル。
- ・教養は定義しにくい時代になっているので文章化可能なものは文章化し、その他をいかに保障・定義 するかが問題

- ・問題点、発見と解決法の設定
- ・様々な知識の取得
- (3) 長崎大学全体の共通教育として①全学教育ではどのような能力・態度・スキル等を養成すべきだと思いますか。また、②どのような教育方法をとればそれらの諸能力が育成できると思いますか。
- ①全学教育ではどのような能力・態度・スキル等を養成すべきか
- ・長崎大学の理念のもと、その内容を具体的に示した物が必要
- ・コミュニケーション能力、問題解決能力
- ・教養セミナーが学生が主体的に学ぶための知識・態度を習得する目標達成のための一つの試みと考えられるが担当教員がその科目の目標を共有していないと考える。
- ・自ら学ぶ学習態度。コミュニケーション能力。
- ・能力:読書力、文章化能力、発言能力 態度:大学の態度の共通化 スキル:解析力、問題解決能力
- ②どのような教育方法をとればそれらの諸能力が育成できると思うか
- ・目標を達成できるためにはシラバスに記載し、それが達成できているかどうかチェックする
- ・医歯薬学系では、教養セミナーから抜け、生命科学系でやろうとしているが教養教育としては・・・。
- (4) 長崎大学の学士課程全体における教養教育を充実させるためには今後どういった取り組み・改善が必要だと思いますか。思いつくことを自由に書いて下さい。
- ・理念目標の具体化
- ・総合大学のメリットを生かした体制の中で専門教育(各学部)の自由度をどのように確保するか
- (5) 全学教育と専門教育の連携性・接続性を高めるためには今後どういった取り組み・改善が必要だと思いますか。
- ・完全型くさび形カリキュラムの実施
- ・具体的教育目標の共有
- ・医学部生は OK と思うが、それでも英語を 6 年間通すなど。

第 44 回長崎大学 FD

授業評価FD「授業評価結果の効果的公開(フィードバック)・活用方法を探る」

1.目的 本学では、全ての科目において「学生による授業評価」を実施することにしている。「学生による授業評価」は、大学・部局、授業担当教員、受講学生がカリキュラム、教育方法・教育成果、学習方法等の課題を発見し、共有・協同して授業改善のためのモチベーションを上げる数少ないチャンスである。大学教育機能開発センターでは、2007年10月、「学生による授業評価」に関する学生懇談会を実施し、学生による授業評価の目的・方法や評価結果の公開(フィードバック)・活用方法等について、学部・大学院学生から様々な意見を聴取した。本FDでは授業改善を目指して学生のこれら意見への対応方法や授業評価結果の効果的公開(フィードバック)・活用方法を探る。

- 2. 対象者 教育改善委員会委員、大学教育機能開発センター教員、関心のある教員
- 3. 日時 2008年6月19日(木) 15:00~17:00
- 4. 場所 事務局 3 階 第 2 会議室
- 5. 参加者数 3名
- 6. プログラム
- 1) 趣旨説明
- 2) 話題提供・コミュニケーションツールとしての授業評価
 - ・学生による授業評価に関する学生懇談会報告
 - ・授業評価結果の効果的公開 (フィードバック)・活用方法
- 3) 意見交換 グループワーク
- 4) まとめ

【主 催】長崎大学教育改善委員会

【企画・実施】大学教育機能開発センター

7. アンケート結果

- (1) 現在の長崎大学の授業評価について思うことをお書き下さい
- ・教員・学生共に授業評価の意義について理解できていない気がする。大教センター、大学の 管理職により、「コミュニケーションツールとしての授業評価」というものを説明していくのが よいと思う。
- ・実施件数、実施率を求めすぎていないか?組織評価で必ず必要か?
- ・実施教室からの改善事例等を集めて PR と更なる実施数増を図っては?
- ・授業評価結果の活用事例が見えない(組織的な活用事例の広報が必要)
- リアルタイム評価ができていない
- ・授業評価の活用方法がわからない。活用している教員が少ない。活用マニュアル、活用例な

どを web 上で出せないか。

- ・授業改善目的ということを徹底すべき。
- (2) カリキュラム、教育方法・教育成果、学習方法等の課題を発見し、協同して授業改善のためのモチベーションを高めるためには授業評価をどのように活用すればいいとお考えになりますか。
- ・多様な方法によって各方面(他の教員、学部、保護者、国)に成果を公表し、そのフィード バックを得るシステムを構築する
- ・カリキュラムの目標等は改訂時には関係教員間で深く議論されるが、年数を経れば注目度が うすれ、当初の目的等が共通理解されていない。常に検証が必要。
- ・教育方法等は常に改善を必要と思うが教員の個性も大事にする必要がある。
- ・評価の低い科目のカリキュラム編成や教育方法・教育成果・学習方法の問題点をあげる。授 業担当者から提案する。
- ・授業毎のコメント・質問などを学生からもらい、毎回の授業に反映させる。
- ・15回のうち1回以上は授業内容改善のため学生を含めた話し合いの時間をとってみる。
- (3) 授業評価の結果を学生にフィードバックすることの①効用と②問題点はどこにあると考えますか?

①効用

- ・「教育改善の一翼を担っている」という学生の意識を高めることができる→自発的な学習へ結びつく?
- ・学習意欲を高める
- ・結果の公開よりも教育の対応のコメントによって学生の授業評価のモチベーションが上がる。 学習意欲が上がる。
- ・学生自身が入力した内容とそれに対するコメントや見解を見ることができれば参加型の評価 といえる。

②問題点

- ・ 高い点を得る教員 = 良い教員という印象を与えやすい
- ・基礎学力の低い努力を品医学生の数値をどう除いてフィードバックするか、真剣な学生に悪 影響
- ・評価の低い教員が「見せしめ」になる。
- ・科目間の比較による単位認定基準の難易性や人気などが軸となってしまわないか
- (4)授業評価の結果を学生にフィードバックする際、①情報公開の規模と②フィードバックの方法をどのようにすればよいとお考えになりますか

①情報公開の規模

- · 学内限定(学部·学科単位等)
- ・全世界でも OK だと思う。もしくは大学全体+保護者(PIN などの使用)

- ・個々の授業の結果→学内、全体的集計→学内外
- ・学生が受講している科目毎に閲覧
- ②フィードバックの方法
- インターネット、報告書など
- ・オンライン、授業中、冊子
- セキュリティを保ったウェブ上で

第 45 回長崎大学 FD

「長崎大学 FD サマーワークショップ」

1.目的 本ワークショップは、教職員が授業の改善や自らの教育・研究能力を向上させることを目的として、課題探求・解決型授業の計画・実施に有用な情報活用プロセス(情報探索・整理・表現)や、学生とのコミュニケーションの活性化など、授業改善のためのスキルアップに役立つプログラムを提供するものである。本 FD を通じ、各教員が問題解決能力や自己表現力の育成を目標とする科目の授業実践や、教育研究活動における諸能力を高めることを目指す。

2. 対象者 参加を希望する全教職員(非常勤の教職員を含む)

3. 日時 第1期: 2008年8月25日(月)~8月27日(水)

第2期: 2008年9月3日(水)~9月5日(金)

※実施時間は1日あたり次の3コマとする:①10:00-12:00,②13:00-15:00,③15:15-17:15

4. 場所 全学教育棟(環境科学部)205番教室,207番教室 情報メディア基盤センター第1端末室

5. 参加者数 112名 (のべ数)

6. プログラム

第1期

日程	時間	題目	講師	場所
	10.00 10.00	マインド・マップを作ってみよう	ルール・ドーン・ミシェル	005 -
	10:00-12:00	~情報整理のツールとして~	(大学教育機能開発センター)	205 番
8/25	12.00 15.00	パスファインダーを作ろう	山口良子、山本知美	007 W
(月)	13:00-15:00	~学生の文献探索支援ツールとして~	(附属図書館)	207番
	15:15-17:15 フィールドワークの方法	増田 研(環境科学部)	205 番	
	10:00-12:00	質問紙による収集データの分析法	吉村宰(アドミッションセンター)	※情メ
0 /00	13:00-15:00	学生とのコミュニケーションをよくするために	富永ちはる	005 平
8/26 (火)		13:00-15:00	~学生相談室の事例より~	(保健・医療推進センター)
	15:15-17:15	学生に伝わるシラバスの書き方	岡田佳子	005
	15:15-17:15	~到達目標を中心に~	(大学教育機能開発センター)	205 番
	10:00-12:00	Excel 入門	三根眞理子	207 番
8/27(水)	10:00-12:00	~受講生情報の管理を題材に~	(医歯薬学総合研究科)	207 111
0/2/(/)()	13:00-15:00	学生の自律性を高める授業づくりとは	ルール・ドーン・ミシェル	205 番
	13:00-13:00	ナエい日拝住で同のの技未 ノくりこは	(大学教育機能開発センター)	200 街

15:15-17:15 レポート課題の出し方と作成支援の実践	西田孝洋(医歯薬学総合研究科) 丸田英徳(情報メディア基盤センター)	207番	
--------------------------------	---------------------------------------	------	--

第2期

9/3(水)	10:00-12:00	テレビで外国語を教えよう ~フランス語を題材に~	ワタナベモレ・オディール (大学教育機能開発センター) 橋本千鶴子(長崎大学非常勤講師)	205 番
	13:00-15:00	マインド・マップを作ってみよう ~情報整理のツールとして~	ルール・ドーン・ミシェル (大学教育機能開発センター)	205 番
	13:00-15:00	大学における授業実施と 授業評価の基礎・基本	寺嶋浩介(教育学部)	205 番
9/4(木)	15:15-17:15	FD プログラムのつくり方 〜組織の実態に即したプログラムを作るに は〜	岡田佳子 (大学教育機能開発センター)	205 番
	10:00-12:00	学生の自律性を高める授業づくりとは	ルール・ドーン・ミシェル (大学教育機能開発センター)	205 番
9/5(金)	13:00-15:00	学生とのコミュニケーションをよくするために ~学生相談室の事例より~	富永ちはる (保健・医療推進センター)	205 番
	15:15-17:15	発表用資料作成のための画像の編集・加工	藤村誠(工学部), 丸田英徳、 長崎隆志(情報メディア基盤センター)	207番

※情報メディア基盤センター第 1 端末室

7. 参加者数

	プログラム名	参加者数
	マインド・マップを作ってみよう	5
第1期	パスファインダーを作ろう	2
	フィールドワークの方法	6
	質問紙による収集データの分析法	7
	学生とのコミュニケーションをよくするために	8
	学生に伝わるシラバスの書き方	5
	Excel 入門	4
計 46 人	学生の自律性を高める授業づくりとは	5
	レポート課題の出し方と作成支援の実践	4
第 2 期	テレビで外国語を教えよう	4
	マインド・マップを作ってみよう	9
	大学における授業実施と授業評価の基礎・基	14

	本	
	FD プログラムのつくり方	9
計 66 人	学生の自律性を高める授業づくりとは	9
	学生とのコミュニケーションをよくするために	12
	発表用資料作成のための画像の編集・加工	9
	計	112

8. アンケート報告

●サマーワークショップに参加して授業実践に関する興味・関心が高まりましたか?

	回答数	%
高まった	62	68.9%
まあまあ高まった	25	27.8%
あまり高まらなかった	3	3.3%
高まらなかった	0	0.0%
計	90	100.0%

●FD サマーワークショップの広報は適切だと感じましたか?

	回答数	%
適切だった	43	46.7%
まあまあ適切だった	40	43.5%
あまり適切ではなかった	8	8.7%
適切ではなかった	1	1.1%
計	92	100.0%

●今後のサマーワークショップや長崎大学 FD で採りあげてほしいテーマ・内容をお書き下さい。

- ・今回のがとてもよかったので実習がついているのがいいです。
- ・今回のような調査・研究についての方法論は参考になります。
- ・話し方(身振り、手振りなど)話術など、できればお願いします。
- ・院生(社会人)とのコミュニケーションのとり方に苦労しています
- 多変量解析
- ・今回 (Excel 入門) と同一
- すぐには思いつきません
- ・授業スライドの構成法
- ・授業の評価の PDCA への活かし方(何をもって良い授業と言うのか)
- ・教養セミナーの教育スキル UP
- ・実習・演習等に関連するテーマがあるとうれしいです。
- もう少しテーマをしぼったらどうでしょうか

- ・具体的な科目名、関連科目でも良い、科目名をあげて FD をしても良いと思う。
- ・学内の授業評価の現状、説明、結果、効果等の報告

●今回のサマーワークショップの企画・運営について改善すべき点があればお書き下さい。

- ・もっと広報をお願いします。事前に詳しい内容がもっとわかるとありがたいです。
- もう少し早く広報した方がよい
- ホームページで官伝すべき
- ・新任教員には可能な限り出席するように各学務の教務委員会などに働きかけた方が・良い
- ・外部講師を呼んだ方がいいと思います。
- ・今回の案内を知った(気づいた)時期がやや遅く、もう少し大々的に広報して頂ければ幸いです。
- 良いと思う
- ・アンケートの設問が受講した課題のないようにそぐわない部分があった
- 外部講師
- センター内の先生のプログラムをふやしてほしい
- ・特にありません
- ・講義の2~3日前に申し込みの確認のメールをいただければさらに良い

9.今後の課題

(1)広報面

広報の拡大を望む声が複数あり → 広報方法をどう改善するか

(現在:教員メーリングリスト、教員ポストへのパンフレット配布、

HP上での掲載(実施要項、プログラム概要の掲載: PDFファイル)

・組織的な教育改善に向けてサマーワークショップをどのように活用すべきか

(2)日程

- ・本年度:参加者数の減少(昨年度 143 名 → 本年度 112 名)
- ・推測される要因:大学院入試とのバッティング(生産科学研究科)→ 入試時期を回避

(3)プログラム

●アンケート自由記述より~要望と対応策

プログラムについての要望	 対応策(FD プログラム案)
(アンケート自由記述より)	V3.05 RX = 1
話し方(身振り、手振り、話術など)	外部講師の招聘
	・外国語科目を対象としたプログラム(本年度実施)提
 特定の科目を対象とした FD	供など
特定の科目を対象とした FD	・全学教育 FD ワークショップにて各科目別委員会ご
	とのプログラム展開

数学 トラナ の 数	レポートの書き方指導プログラム、パスファインダー
教養セミナーの教育スキル UP	プログラムの活用
授業スライドの構成法	PowerPoint の作り方プログラム
学内の授業評価の現状、説明、結果、効	授業評価の改善について話し合うためのワークショッ
果等の報告	プ
実習・演習等に関連するテーマ	ニーズがどこにあるのか検討が必要

第 46 回長崎大学 FD

「高大連携 FD一高校と大学の授業橋渡しのために 一」

- 1.目的 長崎大学の講義担当者と高校の授業担当者が直接意見交換することにより、指導内容 や学生・生徒の状況等についての理解を深め、高校生公開講座・出前講座における講義や大学入学当初の講義及び高校での授業の充実に資することを目的として、別紙のように平成20年度高大連携事業に係る「県内高等学校教員と長崎大学教員との協議会」 (講義担当者会) が開催される。本学教員にとっては、本講義担当者会の目的は本学 FDの目的と合致するため、本講義担当者会に本学FDとして積極的に取り組む。
- 2. 対象者 学内の全学教育に関わる教員
- 3. 日時 平成 20 年 8 月 18 日 13:00-16:00
- 4. 場所 総合教育研究棟
- 5. 参加者数 24名
- 6. プログラム
 - 1) 趣旨説明

全体会:本年度の公開講座の受講状況、授業内容、指導方法、教材、理解の状況の紹介や 意見交換

- 2) 分科会
- 理系---大学の情報処理科目の授業内容、指導方法、教材の紹介、高校での教育状況の紹介 や意見交換
- 文系---大学の人文・社会科学の授業内容、指導方法、教材の紹介、高校での教育状況の紹介を意見交換
- 3) 全体会: 部会報告と意見交換

第 48 回長崎大学 FD

「シラバスを書こう!~学生の学習支援のツールとして~」

1.目的 本 FD は、学生の学習効果を高めるシラバスの書き方を実際に学ぶことを目的としている。授業計画を示すシラバスは、学生にその授業全体の概要を知らせ、授業への心構えを持たせるうえでも非常に重要な役割をもつものであり、教員から学生に対して送られる事前メッセージの意味も持っている。つまり、シラバスとは教員と学生の間のコミュニケーションツールであり、シラバスの書き方次第によって、学生の学習への心構えも変わってくるといえる。また、シラバスの作成は、教育マネジメントサイクルにおける PDCA の各プロセスの中でも、最も重要な P (計画) 段階に該当するものであり、この P 段階をしっかりと構成していくことが、後の授業実践や評価においても非常に重要な意味をもってくる。

そこで、大学教育機能開発センターでは、学生に伝わるシラバスの書き方を学ぶことを目的とした FD を実施する。学生に伝わるシラバスにするためのポイントを演習形式で行うことにより、参加者に実際に使えるシラバス作成のスキルを習得してもらうことを目指す。

2. 対象者 参加を希望する全教職員(非常勤の教職員を含む)。

(演習を行うため参加者は最大でも40人程度までが望ましい)

- 3. 日時 2009年1月7日(水) 13:00~15:30
- 4. 場所 全学教育棟 205 番教室
- 5. 参加者数 26名
- 6. プログラム

13:00~13:10 センター長挨拶

13:10~14:00 解説「学生の学習を支援するシラバスの書き方」

岡田佳子(大学教育機能開発センター)

<内容>

- 1. 教育活動におけるシラバスの役割
- 2. シラバスの書き方
 - ① カリキュラムにおける授業科目の位置づけ、意義
 - ② 授業のルール作り
 - ③ 評価基準としての到達目標の書き方
 - ④ 学習を促進する参考文献の書き方
 - ⑤ 教員から学生へのメッセージ
- 3. 到達目標の書き方練習

14:00~15:15 演習「シラバスを書いてみよう」

15:15~15:30 まとめ

7. アンケート結果 (回答率 57.7%)

	満足 した	まあま あ満足 した	あまり 満足し なかっ た	満足し なかっ た	無記名	計
(1).全般的に見てこのプロ	7	7	0	0	1	15
グラムに満足しましたか?	46.7%	46.7%	0.0%	0.0%	6.7%	100.0%

	思っ た	まあま あ思っ た	あまり 思わな かった	思わな かった	無記名	計
(2)全般的に見てこのプロ	12	2	0	0	1	15
グラムは今後の教育実践	00.00/	10.00/	0.00/	0.00/	6.70/	100.0%
に役立つと思いましたか?	80.0%	13.3%	0.0%	0.0%	6.7%	100.0%

(3) このプログラムについて印象に残った点、良かった点

- ・シラバスを具体的に書くこと
- ・具体的に書くこと、学生の側に立って書くことの大切さが学べてよかったです
- ・具体的に目標を書くこと、評価につなげることが理解できた
- ・具体例が多く、わかりやすかった
- ・言葉づかいと動詞の使い方
- ・書き方の工夫をする際のヒントをいただきました。ありがとうございました。
- ・今回のFDの目的が消化できるような内容でした。具体的な内容でのプログラムだったのですぐにでも応用できそうです。
- ・グループワークを行うのは良いが、各自の資料が印刷できた方が良かったかもしれない
- ・ 具体的例(良い例、悪い例)を使ったものは理解しやすかった
- グループワークが面白かったです
- ・講師の先生のプレゼンテーションが上手であった
- ・シラバスとは学生との契約書
- ・シラバスデザインの際に必要な事項を確認することができた
- ・一度作成したシラバスが改善されていく過程が見られたのが良かった

(4) 本プログラムの改善すべき点

- ・到達目標の練習問題のところではフロアーからの書き直し例を数人に聞いてみるとおもしろいと思いました。途中 5 分休憩がほしかったです。
- ・ワークの時間の余裕が少なかった

- ・教科ごとに分ける必要ができればいいのですが、しかしいろんな学部が集まっているので無理ですかね
- ・スライドの印刷物。メモをとりやすいようにして下さい。
- ・もっと多くの具体例を使って説明を聞かせていただけたら良かったと思いました
- ・科目区分ごとにグループを作り、現在提供されている定例を複数とりあげ、良い点、悪い点などのディスカッションがある方が望ましい→科目別 FD にもとりいれることができる
- ・議論の時間が限られていたのが残念。ワークより議論の時間が嬉しい

(5) 今後の長大 FD で採り上げてほしいテーマ・内容

- ・教員の研究留学の方法(具体的な)経済面も含めて
- ・少人数で実施されている授業において (できれば全学の教室の中で) レポートの書き方を指導し、その授業デザインについて FD を行っていただきたい

(6)参加者の所属

	医歯薬 学総合 研究科	医学部 保健学 科	医学部	工学部	大教セ ンター	無記名	計
人数	3	3	2	2	1	4	15
%	20.0%	20.0%	13.3%	13.3%	6.7%	26.7%	100.0%

(7)参加者の職種

	教授	准教授	講師	助教他	無記名	計
人数	5	2	1	5	2	15
%	33.3%	13.3%	6.7%	33.3%	13.3%	100.0%

(8)分析と今後の課題

- ・本FDの満足度については、「満足した」「まあまあ満足した」がそれぞれ約半数と、比較的高い傾向にある。
- ・教育実践への効用性については、参加者の80%が「役立つと思う」、残りが「まあまあ役立つと思う」と回答しており(但し無記名者1名)、内容の有効性は認められている。
- ・本 FD で評価された点は、「具体的な書き方がわかったこと」「(学生に伝わる) 言葉づかい」「グループワーク・議論」であった。そのため、今回の FD の目標の一つであった教員の実践力を高めることに貢献できたと考えられる。
- ・改善点としては、「科目別に分けるとよい」「ワーク・休憩などの時間配分」「具体例を増やす」などが提案された。来年度以降、科目別・分野別にシラバス FD を実施することを検討したい。
- ・参加者が医学部関係者に偏っている傾向がみられる(約57%)。これは新任者 FD 以外の長崎大学 FD 全般に共通した特徴である。いかにして全学的な参加者を増やすかが課題である。
- ・本 FD は、解説と演習の二つのパートに分かれて構成されているが、前半の解説部の終了後、退室す

る教員が数名いた。本FDの目的が教員の実践力を高めることである点から考えると、こうした教員に対して受講証明書を出すべきか否かについて今後検討が必要と考える。

第 49回長崎大学 FD

「平成 20 年度全学教育FDワークショップ」

【目的】 本 FD ワークショップは、全学教育の各科目別委員会ごとに教育改善を行うことを目的として開催されるものである。授業評価結果に基づいた授業改善など、各科目区分ごとでの共通の教育改善の課題を見出し、担当教員間での共通認識を深化させ、協同的に教育改善に取り組むことを目指すものである。昨年度に続き、本年度も(1) 教養セミナー、(2) 情報処理科目、(3) 外国語科目の各委員会において開催された。以下、各委員会ごとに報告する。

(1)教養セミナー

- 1. テーマ 「学生による授業評価」からみた教養セミナー評価と今後の展望
- 2. 趣 旨 教養セミナー委員会では、教養セミナーの科目目標、到達目標に対応した「学生による授業評価」や、それに対応した設問による「教員アンケート」を行い、その結果を教養セミナーガイドライン等への掲載や、科目別 FD の開催を通じて授業改善を図ってきている。今回のFDワークショップでは、「学生による授業評価」結果を中心に、経年的な評価結果の変容を分析するとともに、「教員アンケート」結果との比較を行い、現状と今後の課題を提案する。

なお、本ワークショップでは最初に、教養セミナー担当者 (特に初任担当者) を対象として、教養セミナーに関する基本事項の説明と、実施の状況や実施面での課題を報告する予定である。

- 3. 対象者・平成21年度教養セミナー担当予定(初任担当含む)教員
 - ・教養セミナーに関心のある教員
 - ・教養セミナー委員会委員
- 4. 日 時 平成21年3月3日(火) 13:30~15:30
- 5. 場 所 全学教育講義棟103番教室
- 6. 参加者数 30名

教養セミナー委員会委員長 高橋正克

- 2) 話題提供「学生による授業評価」からみた教養セミナー評価と今後の展望教養セミナー委員会委員長 高橋正克
- 3) 質疑応答ならびにディスカッション

(2) 情報処理科目

- 1. テーマ 情報処理科目の現状と今後について
- 2. 目的・趣旨 情報処理科目委員会では、2006 年問題に対応して科目の追加等の改革を行ってきた。また、その後の経緯を注意深く見守ってきている。本年度、その結果を基に「情報教育プログラム検討 WG」を立ち上げ、情報処理科目の内容の現状と今後のあり方について議論している。本FDでは、そのWGの検討内容を委員の方々にパネラーとして紹介戴くと共に、皆様と一緒にこの問題を考える機会を持つものである。
- 3. 参加対象者 ・ 全学教育「情報処理科目」担当教員(H21予定者含む)
 - 情報処理科目委員会委員
 - ・ 情報教育プログラム検討 WG 委員
 - ・ 「情報処理科目」に関心のある教職員
- 4. 開催日時 平成21年3月3日(火)13:30~14:30
- 5. 場所 全学教育講義棟104番教室
- 6. 参加者数 22名
- 7. パネラー 寺嶋浩介 (教育学部)

伊藤潔 (薬学部)

藤村誠 (工学部)

藤井美和子 (大教センター)

野崎剛一 (情報メディア基盤センター)

司会:情報処理科目委員会委員長 黒川不二雄(工学部) (敬称略)

(3) 外国語科目

- 1. テーマ 「授業外課題の質と量の検討―自立した学習者を求めて―」
- 2.目的 長崎大学において、主要な全学教育のひとつである外国語教育に関しては、より良い授業・教育を実践するために様々な取り組みをおこなってきています。近年では、短期留学プログラムや習熟度別クラスの編成と教育が実施されています。また、授業内容のコアな部分を保証する共通指導項目(英語)や共通シラバスが作成され、それに基づいた授業が展開されています。今回の外国語科目委員会FDでは、授業外での学生による学習の取り組みを促進、支援するために、「課題の質と量」という観点から議論し、さらなる外国語教育の改善を行っていきたいと思います。
- 3. 参加対象者 · 外国語科目委員会委員
 - ・全学教育「外国語科目」担当教員(H21予定者含む)
 - ・「外国語科目」に関心のある教員
- 4. 日時 平成21年3月16日(月)13:30~16:00

5. 場所 第1部:全学教育講義棟208番教室

第2部:全学教育講義棟205番教室

6. 参加者数 22名

7. プログラム

第1部: 教育指導支援システム(iPortfolioMaker)の実演・演習

第2部: 「授業外課題の質と量の検討―自立した学習者を求めて―」

3. 総括:本年度の成果と平成21年度に向けての課題

昨年度から FD を比較した際、平成 20 年度において進展させることができたのは、FDで扱う内容範囲のさらなる拡張である。昨年度、教育マネジメントサイクルを ver2.0 へと改訂したことにより、FD の扱う範囲を大きく広げることができ、授業レベルのみならず、カリキュラムレベルでの改善や大学組織全体での改善を FD で扱えるようになった。本年度はこれに合わせて、カリキュラムレベルでの改善や組織レベルでの改善を目指した FD を新しく企画した。第 40 回では、大学全体の教育改善を考える学内組織である教育改善委員会の委員を対象とした FD を企画することによって、大学全体における教育改善の課題について捉え、考えるための機会を設けた。これは教育改善の組織的マネジメントとしての FD でもあり、教育改善委員に着任したばかりの教員にとっては今後、委員会で学内の教育改善の課題検討を行っていくための予備知識を習得するための機会になる。本年度は自由参加の形をとったため、参加者数が少ない結果になったが、このような学内での教育改善を組織的に促進する意味合いを持つ FD は、できるだけ積極的に行っていくことが望ましい。今後は、何らかの形での組織的対応が望まれる。また、第 43 回では、「全学-専門教育連携FD」として、長崎大学における教養教育のあり方と、専門教育との接合性について考えるための FD を実施した。大学での FD は、部局レベルでの FD と全学教育レベルでの FD に分断して行われがちな傾向があるが、このように、全学教育と専門教育を同時に扱うことにより、長崎大学における学士課程を全体的な視野の中で捉える FD を行うことができたのは重要な進展である。

次に、昨年度の課題として挙げていた、授業レベルにおける具体的な教育改善の手法やスキルを提示する FD を増やすことができたのも今年の成果である。第 48 回「シラバスを書こう!~学生の学生支援のツールとして」で、授業計画を記したシラバス作成のコツを学んでもらうことを目的とした PDCA サイクルのうち P 段階の強化を目指す FD や、第 44 回「授業評価FD 一授業評価結果の効果的公開(フィードバック)・活用方法を探る」のように、授業評価を用いて授業改善を行う C 段階、A 段階の強化を図る FD を実施した。また、例年行っている FD サマーワークショップでも、昨年度までは教材開発のスキルアップを目的としたプログラムが中心的であったが、「学生の自律性を高める授業とは」「学生とのコミュニケーションをよくするために~学生相談室の事例より~」「大学における授業実施と授業評価の基礎・基本」など、授業運営に必要な諸スキルを高めることを目的としたプログラムを追加した。ここで目指しているのは、各教員が PDCA サイクルを意識して自ら授業改善がしやすくなるような支援であり、これは以前の教育マネジメントサイクルが各教員レベルへ浸透していかず、草の根レベルでの教育改善が進みにくかったことへの反省である。FD の一般的な狭義において授業改善に焦点が当たるのは、やはり教育の基本が授業活動にあることの反映であろう。こうした授業レベルを対象とした FD については、来年度以降も継続

【参考:平成19年度実施長崎大学FD一覧】

	題目	主な対象レベル	段階
第 31 回	長崎大学新任教員 FD オリエンテーション ~長崎大学歴史散歩ー150 年をふりかえる	授業の改善	主としてP
第 32 回	新任教員向け授業実践オリエンテーション	授業の改善	P、D段階
第 33 回	長崎大学 FD サマーワークショップ~課題探求・解決型授業の支援Ⅳ~	授業の改善	PDCA
第 35 回	高大連携による授業改善	カリキュラムの改 善	P、D段階
第 36 回	カリキュラムに沿った授業改善法	授業の改善	C、A段階
第 37 回	研究指導のデザイン	授業の改善	P、D段階
第 38 回	平成19年度全学教育FDワークショップ	カリキュラムの改 善	C、A段階